

3 計画策定のために行った調査

3.1 地域公共交通アンケート調査(H28.3)

1) 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、阿波市民の公共交通の利用状況や市民の移動ニーズ等について把握することを目的として実施している。

(2) 調査対象

調査対象は、阿波市内に居住する 15 歳以上の住民約 2,000 名としている。

(3) 調査方法

郵送配布・郵送回収としている。

配布は、抽出された調査対象者宛に郵送している。さらに任意で、調査対象者の世帯構成員についても調査を行っている（2 枚の調査票を送付し、対象者本人に加え、その世帯の他の構成員 1 人、あわせて 2 人分の回答を得ている）。

(4) 調査日時

配布 : 平成 28 年 2 月 24 日（水）

回収 : 平成 28 年 3 月 4 日（金）

※調査結果の集計は、平成 28 年 3 月 11 日（金）到着分までを対象としている。

(5) 配布数・回収数

配布数および回収数は、下表のとおり。

表 3-1 地域公共交通アンケート調査票の配布・回収状況

配布数	回収数	回収率
2,005 票	584 票	29.1 %

注) 上表の値は、封筒数でのカウントによる。

2) 調査結果

調査結果集計に当たり、設問毎に回答を集計し、不整合の場合も得られた回答は集計対象とした。また、無回答は除外していること、小数点表示の関係等で合計が合わない場合がある。

(1) 性別

- 回答者の性別は、女性がやや多くなっている。

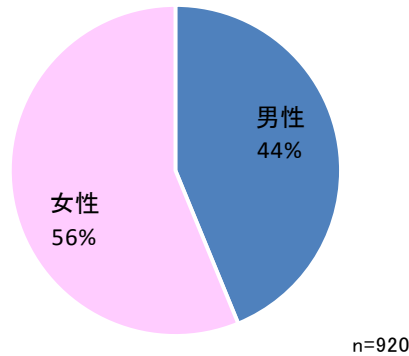


図 3-1 性別

(2) 年齢

- 回答者の年齢構成は 50 歳未満が約 1 割、65 歳以上が約半数となっている。

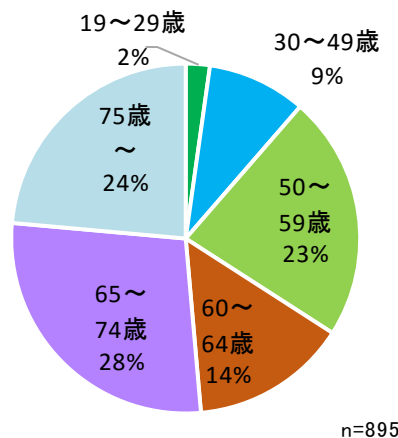


図 3-2 年齢

(3) 居住地

- 回答者の居住地は市場町と阿波町がやや多くなっている。

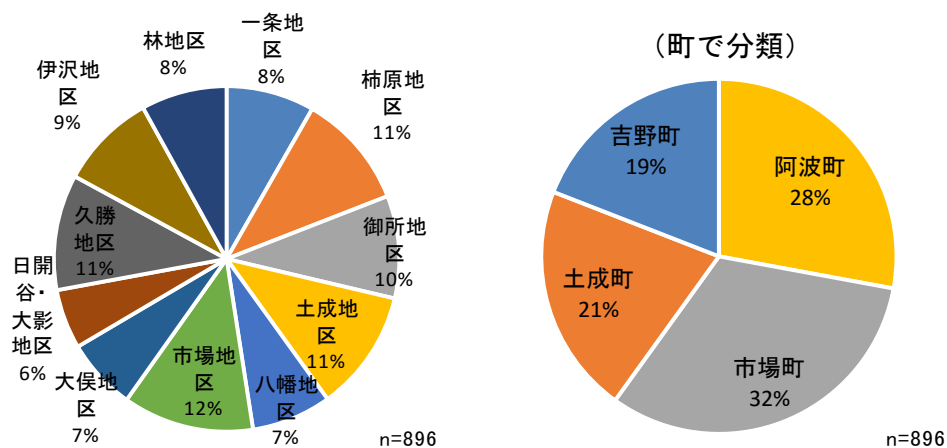


図 3-3 居住地

(4) 交通手段の有無と外出目的

- 自由に使える交通手段は、20代～74歳までは大半が「手段あり」となっているが、10代では半数以上、75歳以上では24%が「手段なし」となっている。
- 運転免許証は20代～74歳までは大半が「免許証あり」となっているが、10代では68%、75歳以上では38%が「免許証なし」となっている。
- 外出目的は10代は通学が約半数となっており、20・30代以降は年齢が上がるにつれて通勤が減少して逆に通院が増加し、買物・娯楽は20代以上は3～4割となっている。
- 10代は通学、75歳以上では通院、買物・娯楽が多く、各目的に応じた移動手段の確保が必要となる。

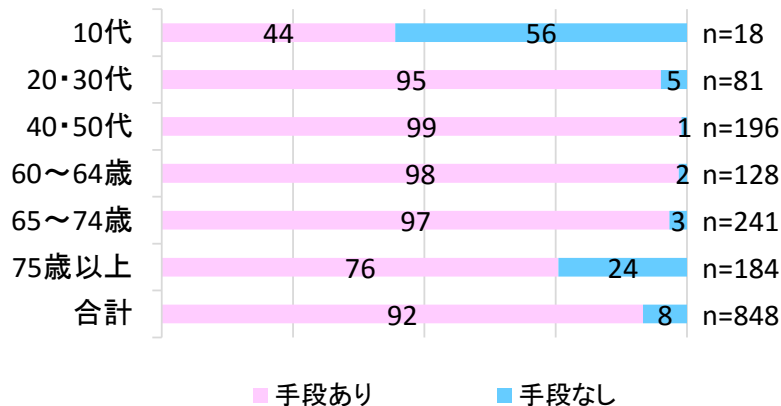


図 3-4 自由に使える交通手段（自動車・バイク・原付）の有無

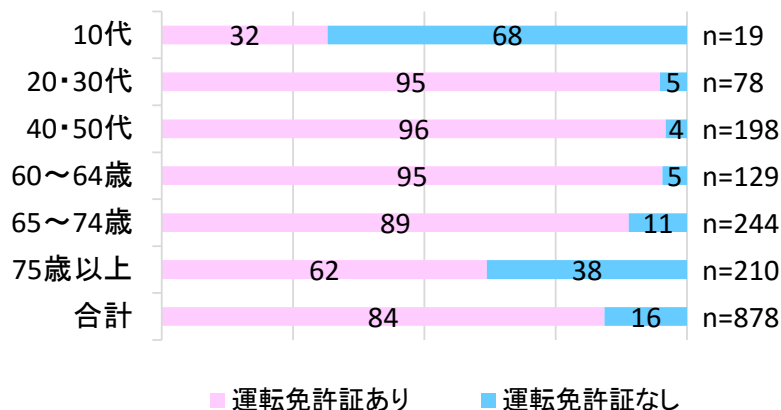


図 3-5 運転免許証（自動車・バイク・原付）の有無

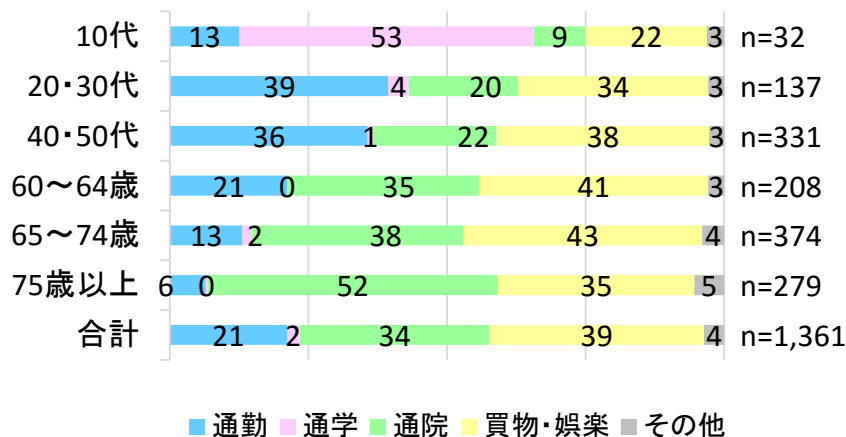


図 3-6 外出目的

(5) 目的別の交通手段

- 通勤はいずれの年代も自動車（自走、送迎）が大半を占めている。
- バス利用は75歳以上で2%みられるものの、他の年代ではみられない。
- タクシー利用は20・30代では2%、65～74歳で1%に留まっているが、75歳以上で8%と他の年代と比べ多くなっている。

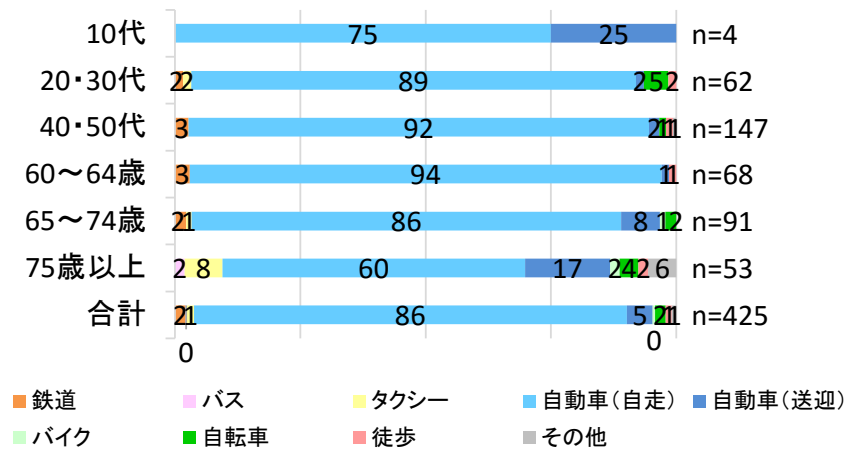


図 3-7 主に利用する交通手段(通勤)

- 通学は10代では自転車約半数と多く、次いで鉄道が18%と多く、バスはみられない。
- 20・30代では自動車（自走）が過半数で鉄道が43%となっている。

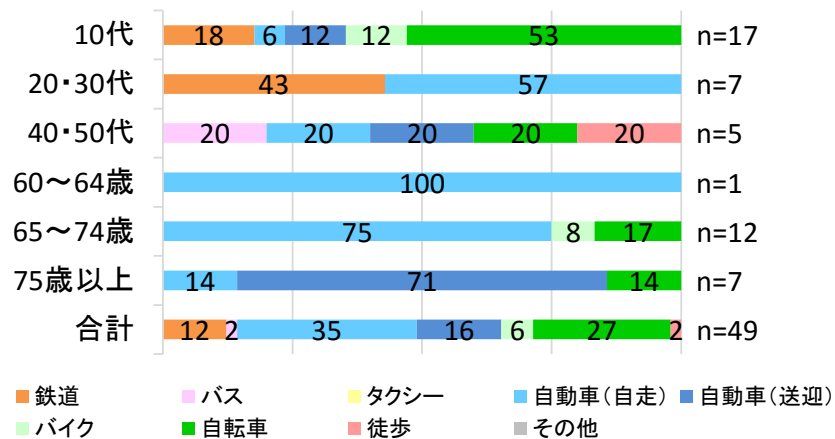


図 3-8 主に利用する交通手段(通学)

- 通院は自動車（自走、送迎）が大半を占めており、10代と75歳以上では他の年代に比べて自動車（送迎）が多くなっている。
- バス利用は、75歳以上で2%みられる。

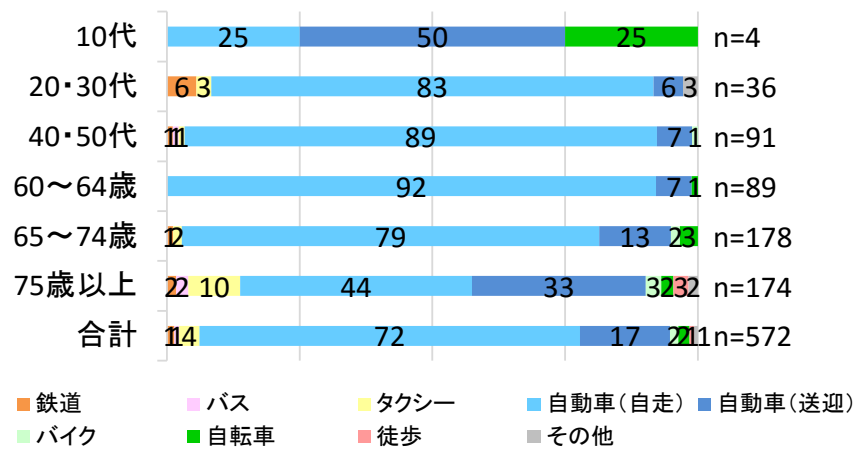


図 3-9 主に利用する交通手段(通院)

- 買物・娯楽は通院と同様に自動車（自走、送迎）が大半を占めており、10代と75歳以上では他の年代に比べて自動車（送迎）が多くなっている。
- バス利用は75歳以上で1%みられる。

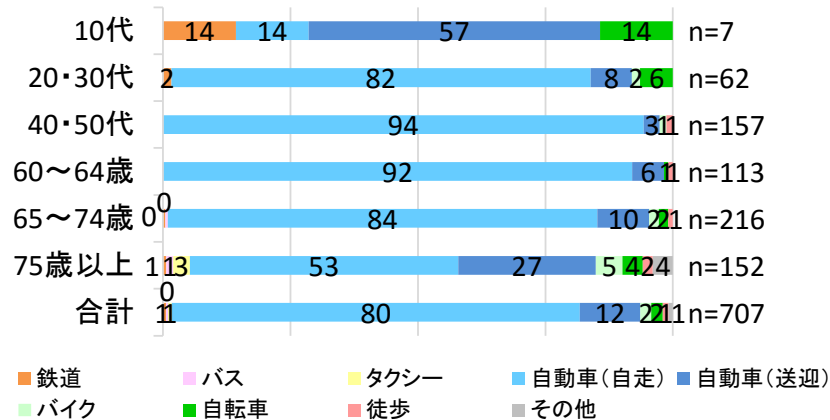


図 3-10 主に利用する交通手段(買物・娯楽)

(6) 外出の状況

- 通勤は週 5 日以上が約 75%となっているが、通院は月に数回が約 48%と最も多く、買物は週 1～2 回が約 38%となっており、週 3 回以上が占める割合は半数以下となっている。

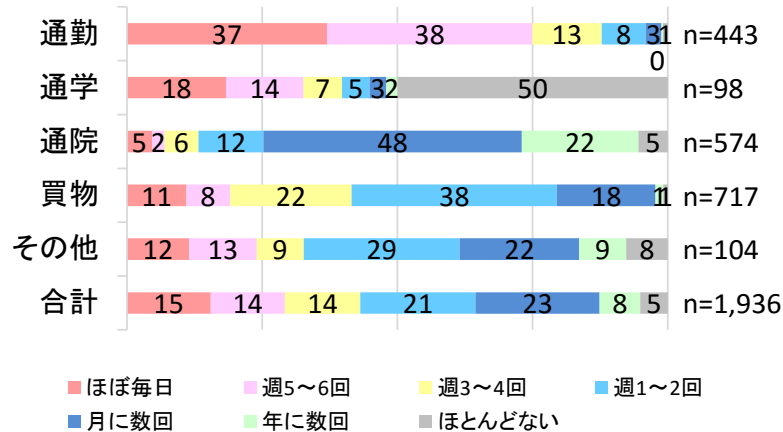


図 3-11 外出頻度

- 希望通りの外出は「十分できている」と答えた人は全体で 4 割を超えており、「おおむねできている」を合わせれば 8 割を超えている。
- 10 代と 75 歳以上では他の年代に比べて「あまりできていない」「できていない」の割合が高くなっている。

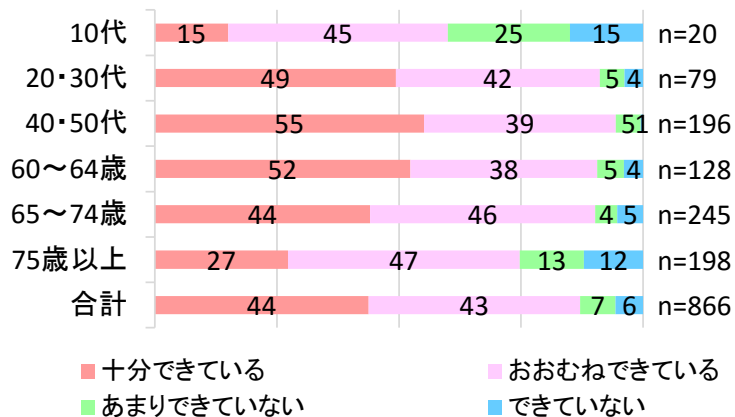


図 3-12 希望通りの外出ができているか

- 希望通りの外出ができない理由は、10 代、65～74 歳、75 歳以上では「移動手段が無い」の割合が高くなっている。また、75 歳以上では、「体力的につらい」の割合が高くなっている。

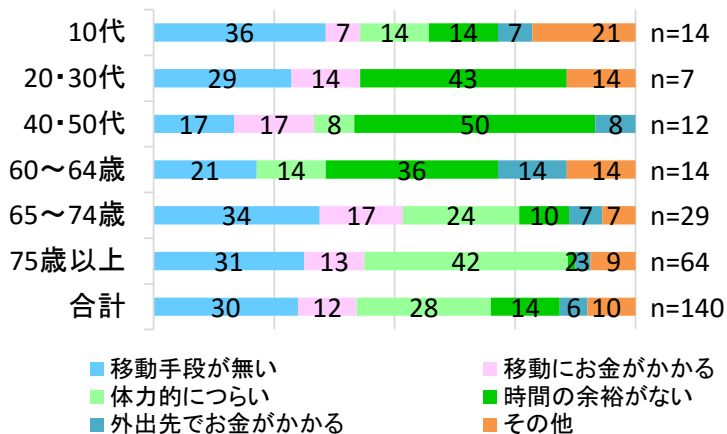
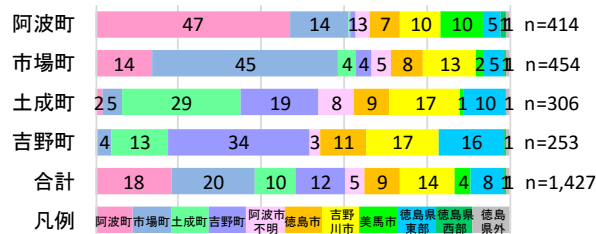


図 3-13 希望通りの外出ができない理由

(7) 外出先

- 町別の外出先は、目的計では各自町内が最も多く、阿波町、市場町では約半数となっている。土成町、吉野町でも自町内が最も多いが、約3割程度となっており、土成町は次に多い吉野町、吉野町は次に多い吉野川市を足すと約半数となっている。
- 全体で約6割が市内での移動となっている。

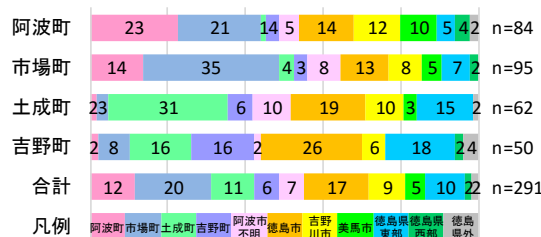
【目的計】



- 自町内の移動が多い。
- 吉野町・土成町は徳島市への移動が多い。

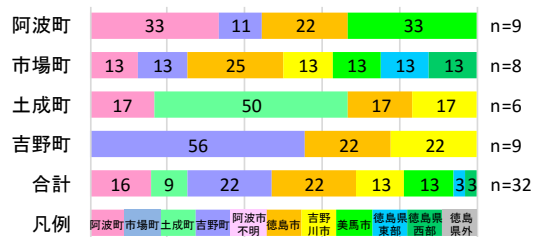
- 各町とも徳島市への通学が約2割あるほか、吉野川市や美馬市への通学もみられる。

【通勤】



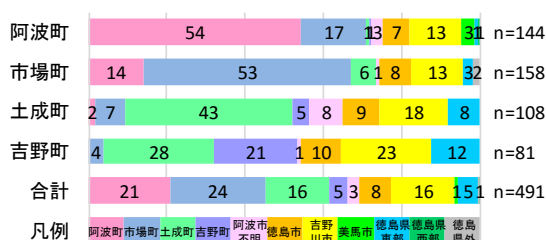
- 自町内の移動が多く、吉野町から土成町への移動も多い。また、吉野川市への移動もみられる。

【通学】



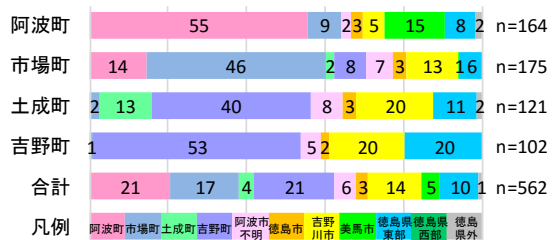
- 自町内での移動が多いが、土成町では吉野町への移動が多い。また、吉野川市や美馬市への移動もみられる。

【通院】



- 自町内での移動が多いが、吉野町では土成町への移動が多い。また、徳島市や吉野川市への移動もみられる。

【買物・娯楽】



【その他】

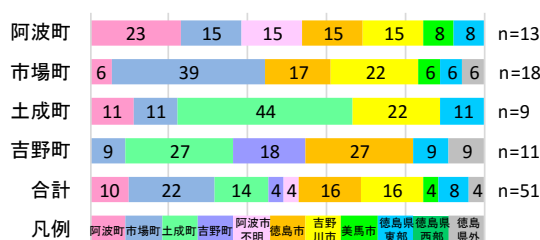


図 3-14 目的別の外出先(町別)

(8) 居住エリア別の通院、買物・娯楽の目的地

- 阿波町の方の目的地は、買物・娯楽は阿波町内の「アワーズ」(43件)や「デイリーマーケット」(32件)、市外では美馬市の「マルナカ脇町店」(30件)が多く、通院は市場町の「阿波病院」(23件)や阿波町内の「林内科医院」(16件)、市外では吉野川市の「吉野川医療センター」(10件)が多くなっている。
- 市場町の方の目的地は、買物・娯楽は市場町内の「マルナカ市場店」(68件)、阿波町の「アワーズ」(11件)、「デイリーマーケット」(11件)が多く、通院は市場町内の「大久保内科」(29件)、「阿波病院」(19件)、市外では吉野川市の「吉野川医療センター」(13件)が多くなっている。



図 3-15 阿波町地区の通院、買物・娯楽の目的地



図 3-16 市場町地区の通院、買物・娯楽の目的地

- 土成町の方の目的地は、買物・娯楽は吉野町の「マルナカ柿原店」(62件)、市外では藍住町の「ゆめタウン徳島」(7件)が多く、通院は土成町の「大野病院」(14件)や「御所診療所」(7件)、市外では吉野川市の「吉野川医療センター」(6件)が多くなっている。
- 吉野町の方の目的地は、買物・娯楽は吉野町内の「マルナカ吉野店」(47件)や「マルナカ柿原店」(14件)、通院は土成町の「金塚内科」(8件)や「御所診療所」(7件)が多くなっている。

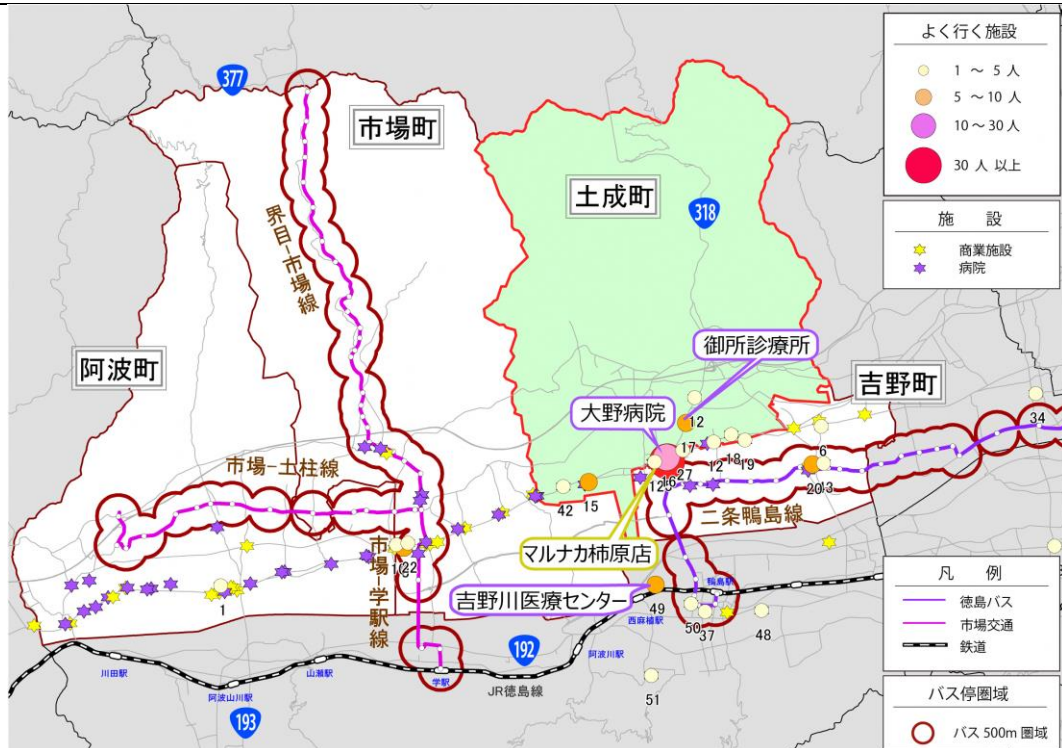


図 3-17 土成町地区の通院、買物・娯楽の目的地

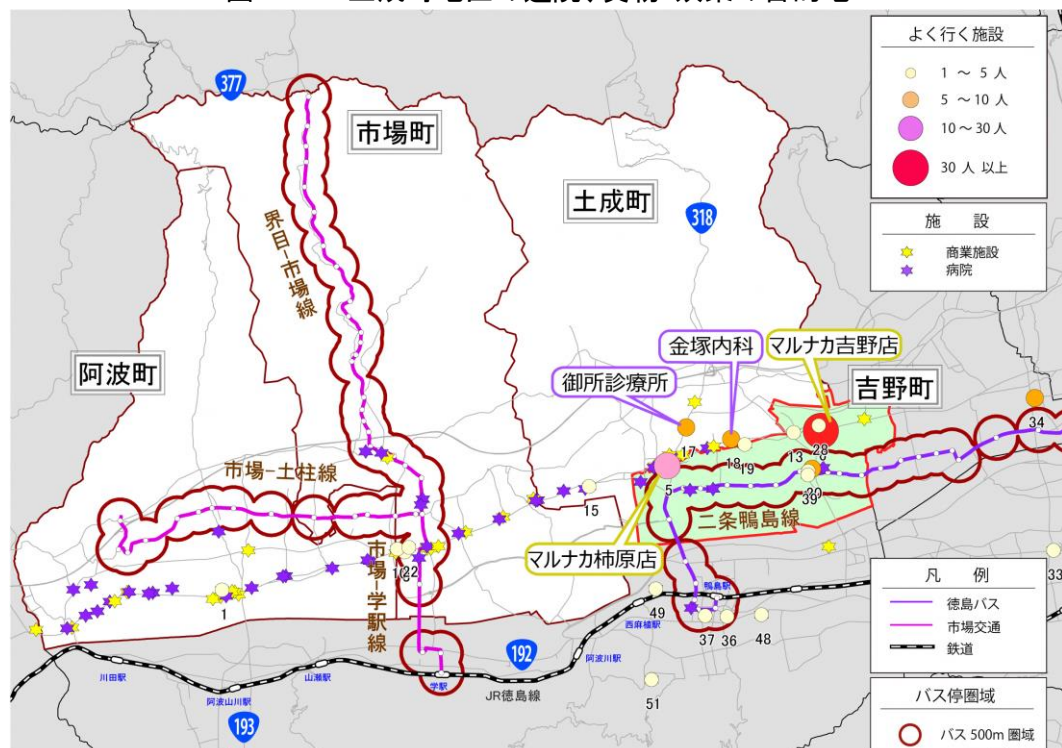
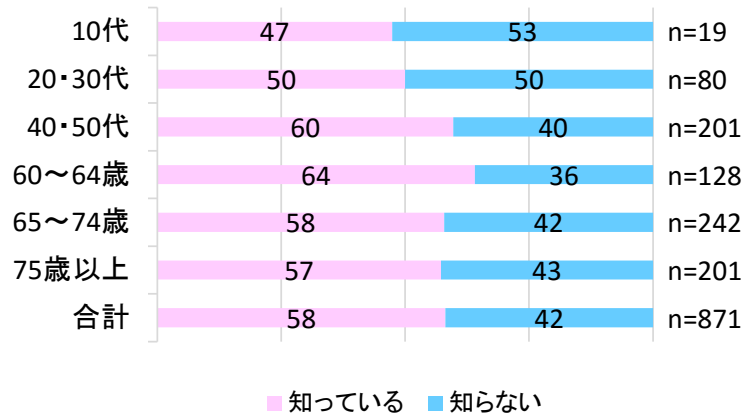


図 3-18 吉野町地区の通院、買物・娯楽の目的地

(9) 路線バスの認知と利用状況

- 路線バスの認知状況を年代別にみると、路線バスを「知っている」は 47～64%に留まっている。
- 町別では、路線バスが運行中である吉野町や市場町では 75～79%を占める一方、便数の少ない阿波町や、公共交通の無い土成町では 37～41%と低くなっている。

【年代別】



【町別】

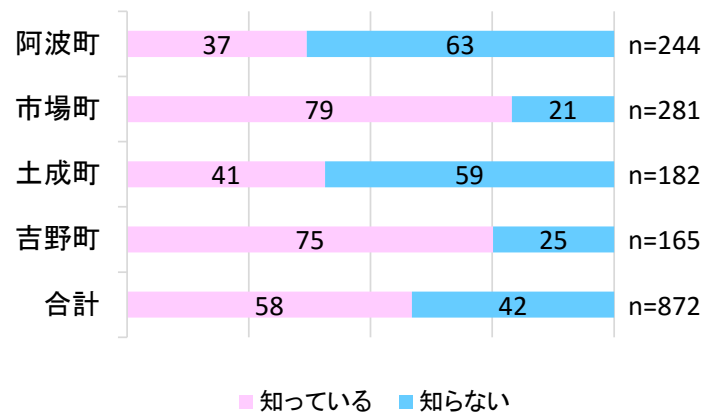
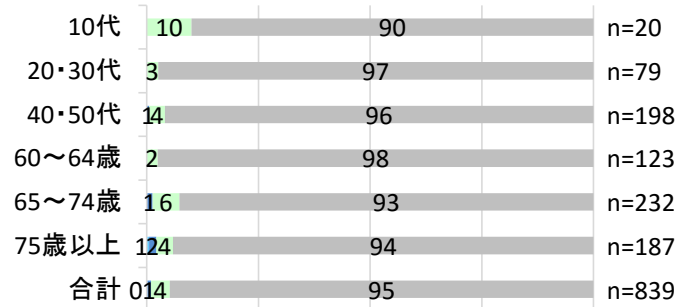


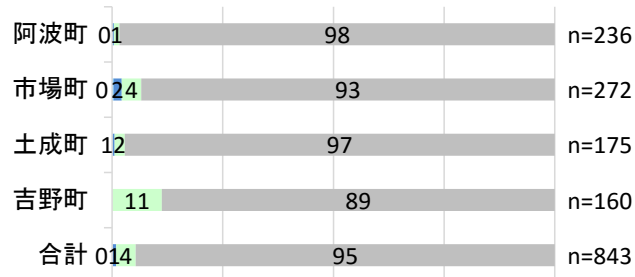
図 3-19 認知状況

- 路線バスの利用は、年代別では「ほとんどない」が9割以上となっており、残り数%を「月に数回」「年に数回」が占める状況となっている。
- 町別では、現在、徳島バス(株)の路線バスが運行している吉野町で、「年に数回」が11%となっているほかは、いずれの町も「ほとんどない」が約9割を占めている。
- 地区別では日開谷・大影地区で「週1～2回」が2%、「月に数回」が6%、一条地区と柿原地区で「年に数回」約1割となっているほかは、いずれの地区も「ほとんどない」が約9割を占めている。

【年代別】



【町別】



【地区別】

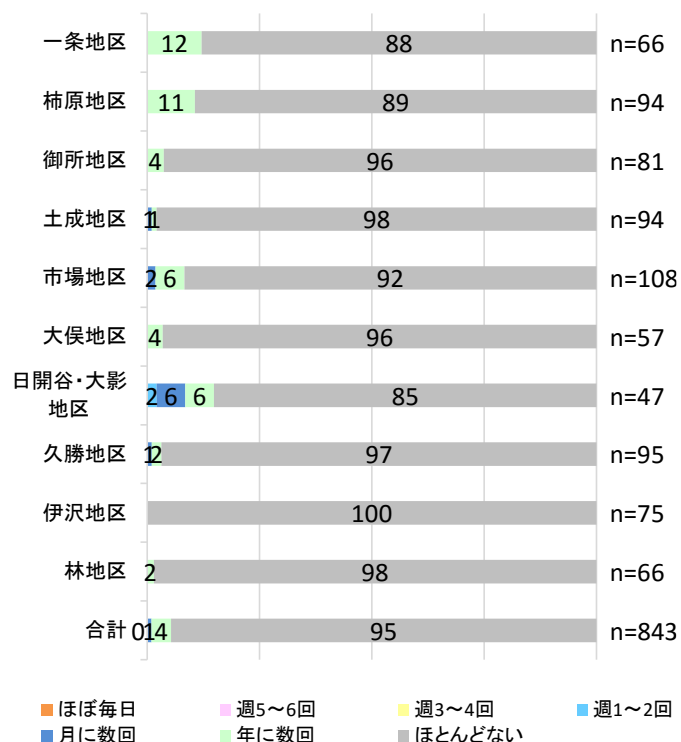


図 3-20 利用状況

(10) 路線バスの評価と空白地域に対する意識

- 路線バスの評価として、運行区間、便数、バス停数で「拡大」のニーズが高くなっている。
- 「よく知らない」が6割以上存在し、路線バスに無関心な方が多くなっている。

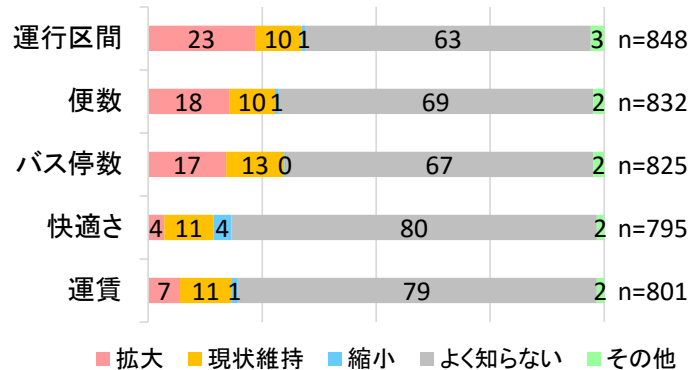
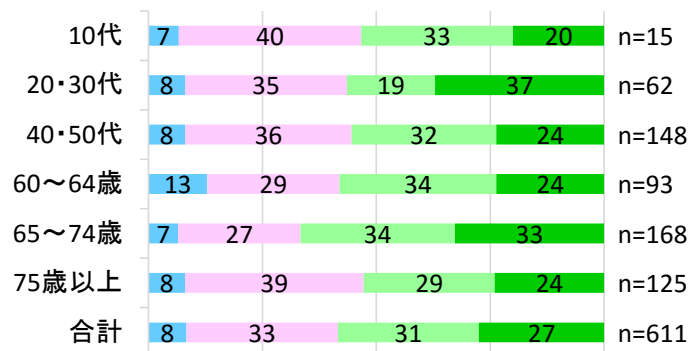


図 3-21 路線バスの評価

- 公共交通空白地域に対する意識は、「対策をしてほしい」「検討してほしい」がほとんどの年代で半数を超えている。特に、10代、40・50代、75歳以上で高くなっている。
- 町別に見ると、土成町の「対策をしてほしい」が4割を超えている。

【年代別】



【町別】

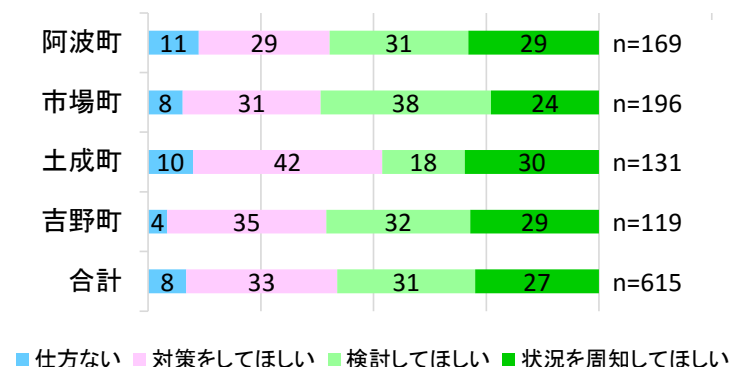


図 3-22 公共交通空白地域に対する意識

(11) 現在の公共交通の利便性とその理由

- 現在の公共交通の利便性は、「充分便利」は全ての年代で1割未満となっており、一方「不便」は約2割～4割となっており、特に10代が多く、次いで40・50代、75歳以上の順となっている。

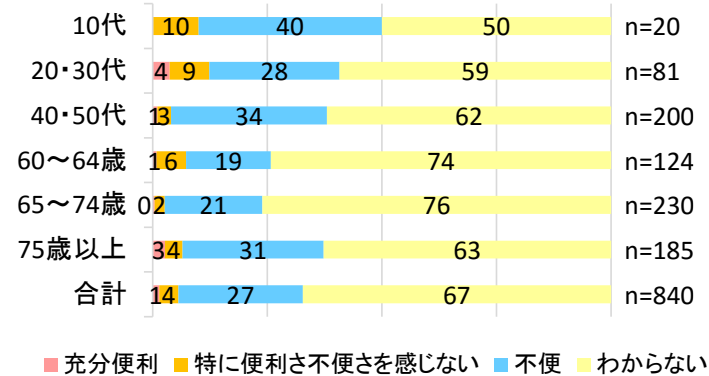


図 3-23 現在の公共交通の利便性

- 不便だと感じる理由は、「公共交通の選択肢が少ない」「バス路線が少ない」が多く、特に75歳以上が多い。
- 10代と60歳以上では「バス路線が少ない」が多くなっている。
- 自動車を運転できる年代でも「公共交通の選択肢が少ない」が多くなっている。

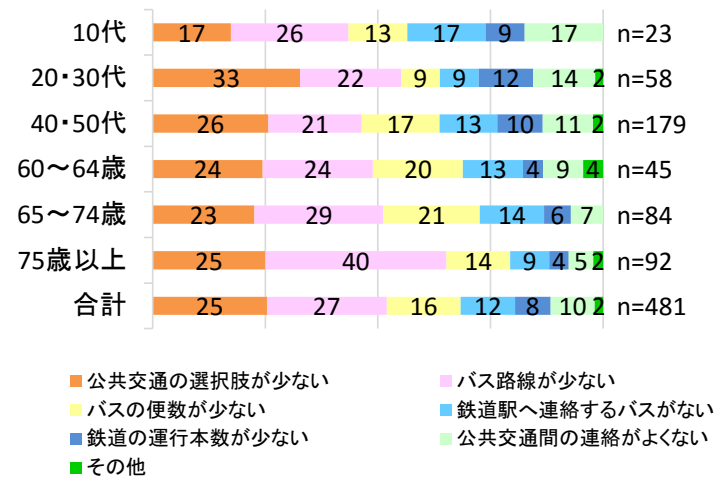


図 3-24 不便だと感じる理由

(12) 公共交通の維持拡充や新たな公共交通機関等の希望

- 将来の公共交通の維持に関する認識は、「維持すべき」が概ね半数となっている。

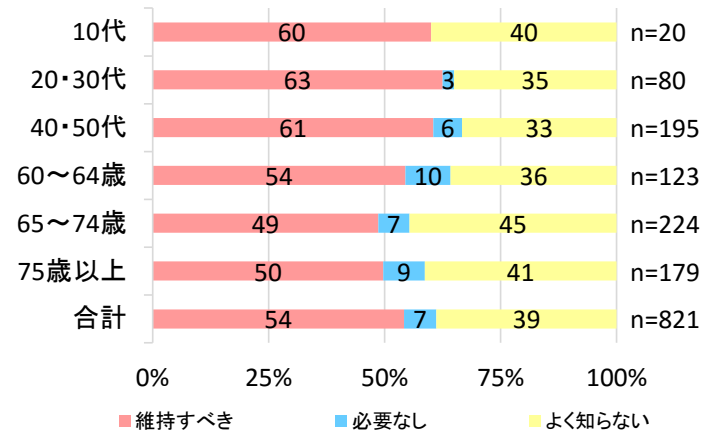


図 3-25 公共交通の維持に関する認識

- 路線の拡充などを希望する新たな公共交通機関は、「希望あり」が 41%～56%となっており、10代で特に多くなっている。

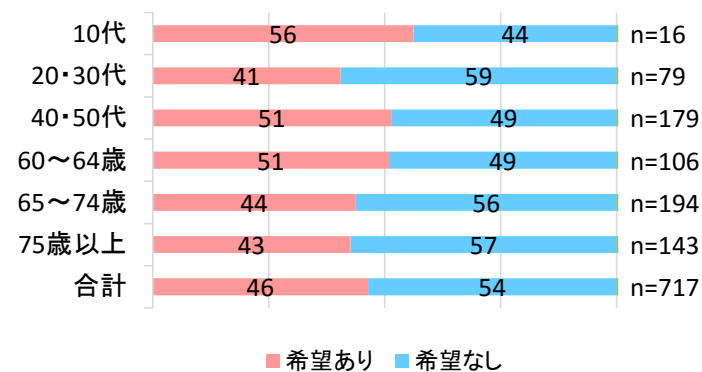


図 3-26 路線の拡充などを希望する新たな公共交通機関の有無

- 今後の路線バスの運行に対する意識は、「拡充」が約 2 割、「置換（バスに代わるより効果的な公共交通手段の設置を検討すべきである。）」が約 4 割と、合わせて約 6 割が対策実施を望んでいる。
- 市場町、吉野町では他地域に比べて「維持」が多くなっている。

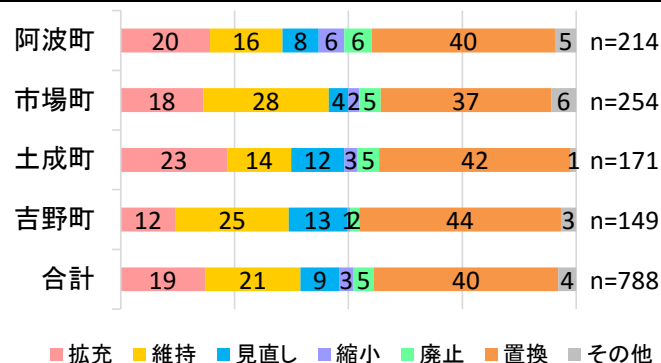
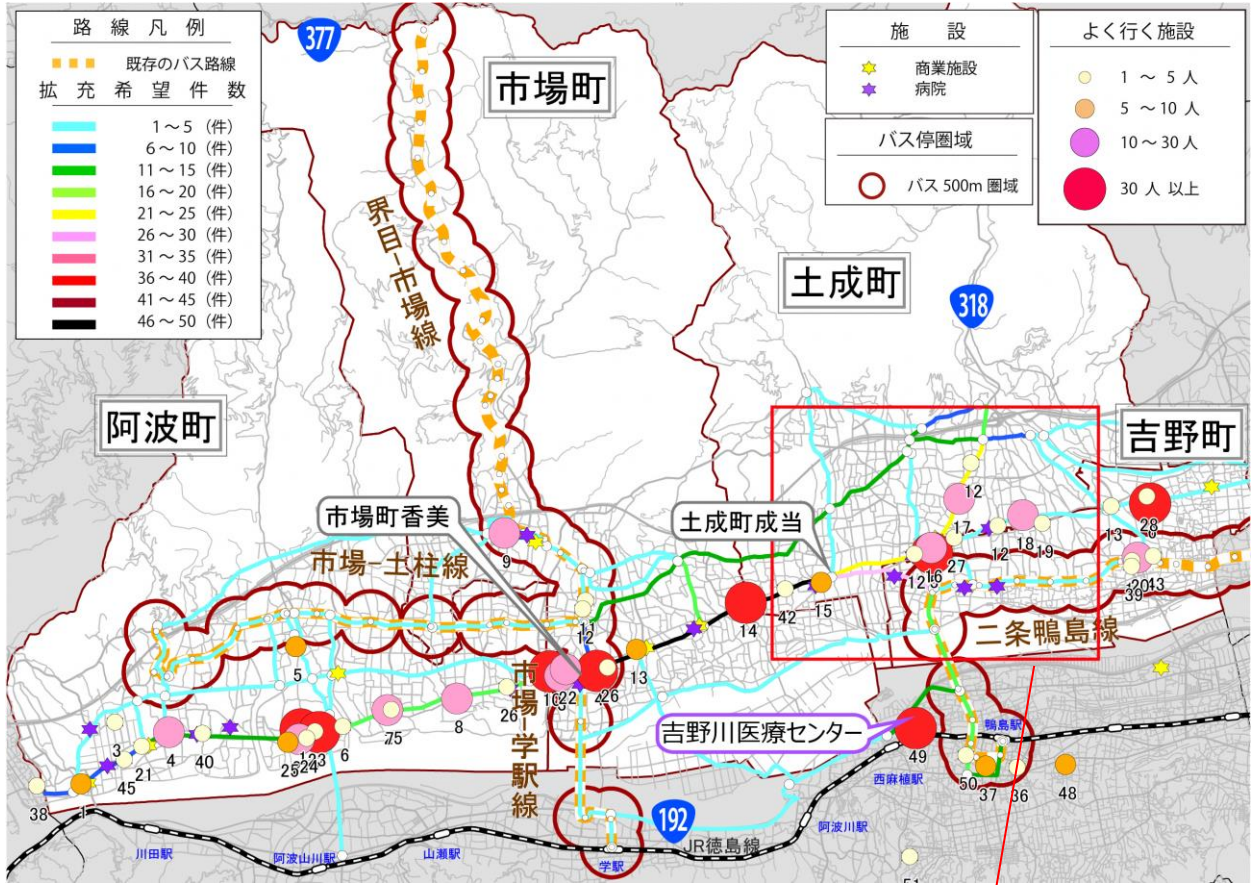


図 3-27 今後の路線バスの運行に対する意識

- バス路線拡充の運行希望があった区間は、二条鴨島線（徳島バス株）と市場-学駅線（有市場交通）の間のエリアで現在運行されていない「土成町成当」から「市場町香美」までの区間が最も多くなっている。
- 通院、買物・娯楽の目的地は、鳴門池田線沿いにある施設が多く、バス路線拡充の運行希望も鳴門池田線が多くなっている。また、市外では吉野川医療センターへ訪れる方が多く、運行希望も多くなっている。



希望が多い区間

- ① 市場町香美～土成町成当
- ② 二条中バス停付近～マルナカ柿原店付近
- ③ 土成町成当～二条中バス停付近

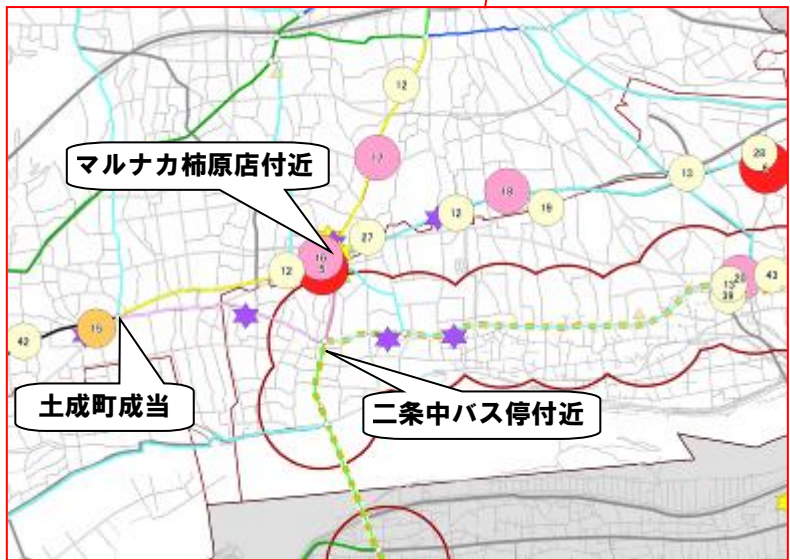


図 3-28 路線バスの拡充希望路線

(13) 公共交通を継続して運行していくために必要なこと

- 公共交通を継続して運行していくために必要なことは、「地域住民が支えていく意識を育てる」が最も多く、次いで「地域住民が積極的に利用」となっており、いずれも地域住民への働きかけや取組みが重要と考えられている。

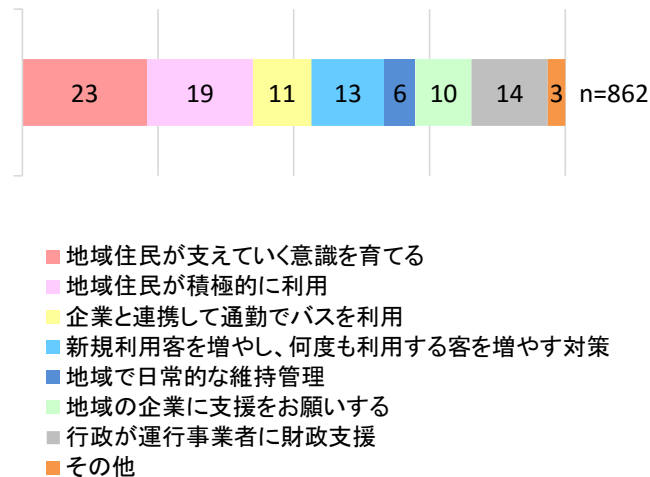


図 3-29 公共交通を継続して運行していくために必要なこと

(14) 地域公共交通に関する意見

- 移動手段として自動車を利用されている方が多いものの、将来運転できなくなった際に移動に不安を感じている回答が見受けられる。

(自由意見より抜粋)

- これから老人世帯がどんどん増え、自動車を運転したくてもできなくなる人が増加すると思います。義父が運転が不安な状態になっても免許証を返却しようとせず事故を起こさないかずっといぶん心配しました。あと15年もすれば私もそうなると思います。免許証を返納しても安心して自分の行きたい場所に行ける公共交通機関ができるよう願っています。
- 現在の年令であれば自家用車の運転は出来るが、いつまで出来るかわかりません。家族がいても、ずっと付き添ってくれる訳ではなく身体も少しずつ衰え出し、誰かの支えが必要になります。病院、買物、その他（郵便局、銀行）に行く事も知り合いの人に頼んだり（常時頼めない）タクシーを利用することになるでしょう。そんな時、必要に応じて経済的にも安く利用出来るサービスがあれば良いなと思います。利用者も、介護支援の様な形で登録出来る様にしてほしいと思います。
- 自分で自家用車の運転が出来なくなり免許証を返納した場合、自分が希望した場所へ行けるタクシーのような車（割安）を市が運行するか、又は他の人に行って頂けるような仕組みをつくってもらいたいと思います。このような考えの人は他にもたくさんいらっしゃると思います。どうか前向きに考えて実現出来る事を願っております。病院へ行く時だけでも大変助かります。特殊の病気で今通っている病院が遠いので交通の便も悪いし費用が嵩みます。
- 現在は自分で運転出来ますが将来が不安です。
- 自分達も20年後あたりには、自動車も運転できなくなると思うので、1番に生きてゆく上で、病院と、食料品の買物に困ると思います。病院はタクシーと考えます。食品は、移動スーパー車に来てもらうつもりと考えています。当面は、子供達がしてくれると思っています。これから先、財政も厳しく、できるだけ、経費節約で、老人の方達もできる限

り、若者に負担を少なくするように、自分達で、できるように考えていったら思います。公共バスも毎日じゃなくて、5日とかの単位で出たらどうかと思います。

- 今はまだ40歳代で、車の運転も、車の維持もできていますが、将来的に現状のように、維持していけるという保証はないので、買物や病院に行きたい時に行けない時がくると思うだけでとても不安です。特に最近、阿波市で住むのは不便だと感じる事がよくあり、本当は、高齢になった時には便利な土地で住みたいというのが理想です。病院も買物するお店も娯楽施設もないに等しく、ただでさえ人口流出が止まらなくなっていく中、阿波市は発展性がひとつもなく、廃れてゆくのをただ眺めて見過ごしてゆくだけなのだろうかと思議に思います。本当に交通手段は考えないと、生活弱者は救えません。
- 自分の将来の事を思うと自動車以外の交通手段が少ないというのは切実です。特に私には子供や兄弟はいませんので、自分が車を運転できなくなった時どうすればいいのか。財政等問題は山積でしょうが、公共交通機関は残してほしいと思います。将来徳島市内のぐるりんバスのような小さなバスが阿波市内を走ればうれしいです。
- 少子・高齢化の時代、日々の生活で現在は車の運転が出来ますが年令が上がると運転も難しくなります。食料品を買うにしても、病気になる医者に行くにもタクシーでは高く年金も目減り状態で老人が安心して暮らせる交通網があれば少しは安心出来ます。市内周回小型バスなども一案かと思います。
- 自分の年令を考えてもあと10数年しか運転ができないと思います。バスは、足腰が弱いと無理なのでタクシーを充実させてほしいと思います。
- 現在は元気で自分で自動車にも乗れるが将来のことを考えるともっと高齢化になっているであろうから地域公共サービスの拡充をお願いしたい。
- 病氣してから何年先分からないけど交通手段は身近な問題、遊びよりも買物や病院に行く事ばかり、独居老人になることは確かな事だから少ない年金生活なのに交通費に悩まされる。5年先運転出来ないと思う（目視力、体力の問題）。御所地区には路線バス無しなのが残念。
- 自分で車を運転できなくなる時は必ず来る。公共交通機関の維持、拡充は大切な問題である。生活できる様整備を継続してもらいたい。
- 家族で交通手段がないものがあるので、どこへ行くにも送り迎えがいる。他の家族の負担になる。家から病院もスーパーも高齢の家族は歩いていけないのでとても不便に思っています。効率的で便利な公共交通機関を今すぐにでも設置してほしい。今のままでは自分自身も自家用車が運転できなくなった時、非常に不便に感じると思う。

(15) 地域公共交通アンケート調査(H28.3)からみた課題の整理

地域公共交通アンケート調査の結果より、以下のことがわかった。

〔アンケートからわかったこと①〕

- ・「運転免許証がない」と回答されているのは10代と75歳以上で割合が高くなっており、この年代は「自由に使える交通手段がない」の割合も高くなっている。(p3-3)
- ・通勤、通院、買物・娯楽を目的とした外出手段として、自動車の利用が多く、送迎での自動車利用を含めると大半となっており、送迎での自動車利用は、通院、買物・娯楽で10代と75歳以上が多くなっている。(p3-4、3-5)
- ・10代と75歳以上の年代は運転免許証を持たない人の割合が高く、その場合は送迎等での移動が多くなり、自由に使える交通手段がないと認識されていると考えられる。(p3-3、3-4、3-5)
- ・自動車の利用が多くなっているが、将来運転ができなくなった際の移動手段には不安を抱える人が存在している。(p3-16、3-17)
- ・希望どおりの移動が「十分できている」と答えた人は全体で4割を超えており、「おおむねできている」を合わせれば8割を超える。希望どおりの外出が出来ない理由は、10代、65歳以上で「移動手段が無い」が多く、特に75歳以上では「体力的につらい」が多くなっており、体力面で移動の負荷が大きくなっていると考えられる。(p3-6)

運転免許証の非保持者、自由に使える交通手段がない10代と65歳以上の移動の確保が必要。
特に75歳以上は体力的に移動の負荷が大きいことを考慮する。

〔アンケートからわかったこと②〕

- ・路線バスの認知は、市場町・吉野町では7割を超えて認知されているが、阿波町・土成町では4割前後であり、利用については全町において約9割が「ほとんどない」と答えている。(p3-10、3-11)
- ・現在の公共交通について、バス路線が少ない、公共交通の選択肢が少ない、バスの便数が少ないとの意見が多く、利便性の低さがある。(p3-13)
- ・公共交通を「維持すべき」と考えている人は、各年代で約5～6割となっており、約4割が「拡充」を希望しており、特に10代が多い。(p3-14)
- ・路線バス運行に対する意識は、「拡充」が約2割、「置換」が約4割となっている。(p3-14)

公共交通の選択肢が少なく、路線バスは路線数・便数が少ないため、
新たな交通手段も含めたニーズに合った交通手段が必要。

〔アンケートからわかったこと③〕

- ・公共交通空白地への対策は、各年代で半数の人が対策・検討をしてほしいと考えている。
(p3-12)

公共交通空白地域への対応が必要。

〔アンケートからわかったこと④〕

- ・自町内での移動が最も多くなっており、市内での移動は約6割となっている。市外への日常的な移動需要もある。(p3-7)
- ・市内では中核となる総合病院（「阿波病院」）、医療機関（「大久保内科」「林内科医院」「大野病院」「御所診療所」「金塚内科」）やスーパーマーケット（「アワーズ」「デイリーマート」「マルナカ市場店・柿原店・吉野店」）の利用が多くなっている。これらのうち、「マルナカ市場店」等一部の店舗を除いて、路線バスの運行経路外の施設が多くなっている。また、市外では吉野川市の「吉野川医療センター」や美馬市の「マルナカ協町店」が多く、藍住町の「ゆめタウン徳島」への移動需要もある。(p3-8、3-9)
- ・市民がよく利用する主要な医療機関や商業施設は、鳴門池田線沿いに点在しており、バス路線拡充の運行希望も鳴門池田線沿いが多くなっている。(p3-15)
- ・バス路線拡充についての市民の運行希望は、二条鴨島線（徳島バス株）と市場学駅線（有市場交通）との間のエリアが多く、特に公共交通空白地となっている「土成町成当」から「市場町香美」までの区間が多い。(p3-15)

市民がよく利用する市内外の施設へのアクセス確保が必要。

〔アンケートからわかったこと⑤〕

- ・公共交通の継続には「地域住民が支えていく意識を育てる」、次いで「地域住民が積極的に利用」となっており、地域住民への働きかけや取り組みが重要と考えられている。
(p3-16)

公共交通の継続に向けた地域住民との協働が必要。

3.2 高齢者アンケート調査

1) 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、阿波市民のうち、移動手段確保の困難な方が多いと想定される高齢者について、現況における移動状況や公共交通の利用状況のほか、移動ニーズや、今後の公共交通整備に対する意見等を把握することを目的として実施した。

(2) 調査対象

調査対象は、阿波市内に居住する満 65 歳以上の男女のうち、各地区について無作為に抽出した合計 800 名の方とした。

ただし、各地区の対象者数は、地区別に一定の人数を割り振ったうえで、残る人数については、人口比率に応じて各地区へ按分し設定している。

また、対象者の抽出にあたっては、路線バス沿線住民アンケート（後述）の調査対象と重複しないよう調整を行っている。

(3) 調査方法

郵送配布・郵送回収とした。

(4) 調査日時

配布 : 平成 29 年 8 月 21 日 (月)

回収 : 平成 29 年 9 月 5 日 (火)

※調査結果の集計は、平成 29 年 9 月 8 日 (金) 到着分までを対象としている。

(5) 配布数・回収数

配布数および回収数は、下表のとおり。

表 3-2 高齢者アンケート調査票の配布・回収状況

配布数	回収数	回収率
800 票	318 票	39.8 %

2) 調査結果

調査結果集計に当たり、設問毎に回答を集計し、不整合の場合も得られた回答は集計対象とした。また、無回答は除外していること、小数点表示の関係等で合計が合わない場合がある。

(1) 性別

- 性別は女性が6割と男性に比べて多くなっている。

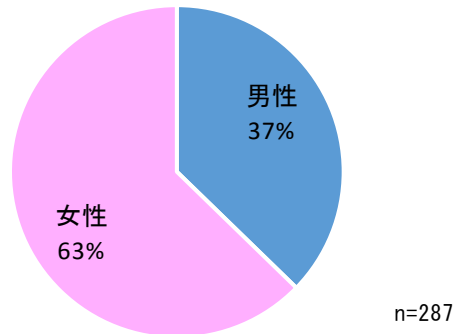


図 3-30 性別

(2) 年齢

- 年齢は最も多いのは65～69歳で、75歳以上の後期高齢者が半数弱となっている。

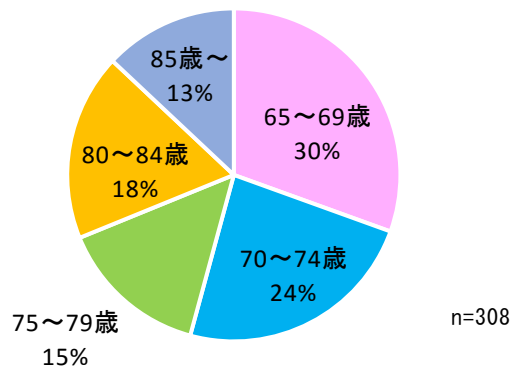


図 3-31 年齢別

(3) 居住地

- 町別では市場町が最も多く、次いで阿波町が多くなっている。

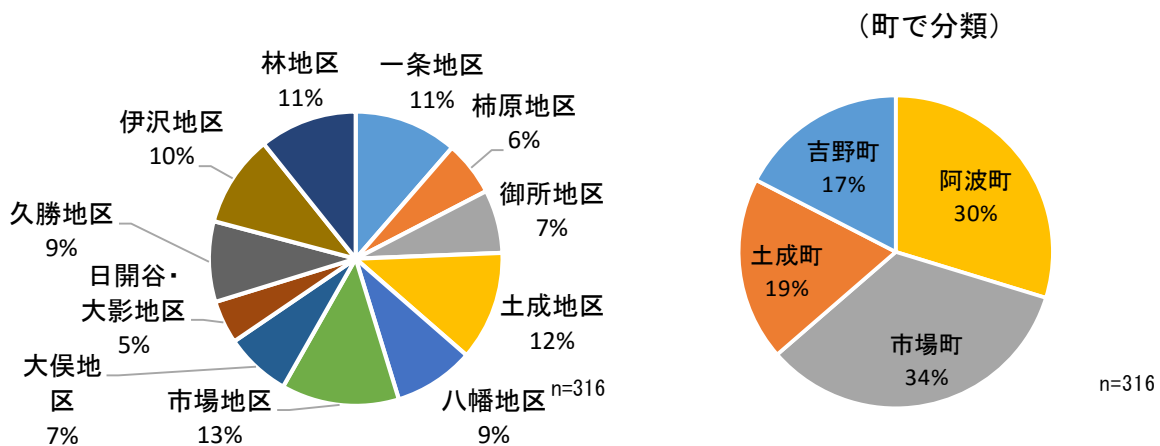


図 3-32 居住地

(4) 居住エリア別の通院と買物の目的地

- 阿波町の方の目的地は、買物は阿波町内の「アワーズ」(48件)、「デイリーマート」(39件)、市外では「マルナカ脇町店」(17件)が多く、通院は阿波町内の「林内科医院」(16件)や市場町の「阿波病院」(13件)が多くなっている。
- 市場町の方の目的地は、買物は市場町内の「マルナカ市場店」(49件)、「JA夢市場」(36件)が多く、通院は市場町内の「大久保内科」(20件)、「阿波病院」(16件)が多くなっている。市外では吉野川市の「吉野川医療センター」(7件)への移動がみられる。

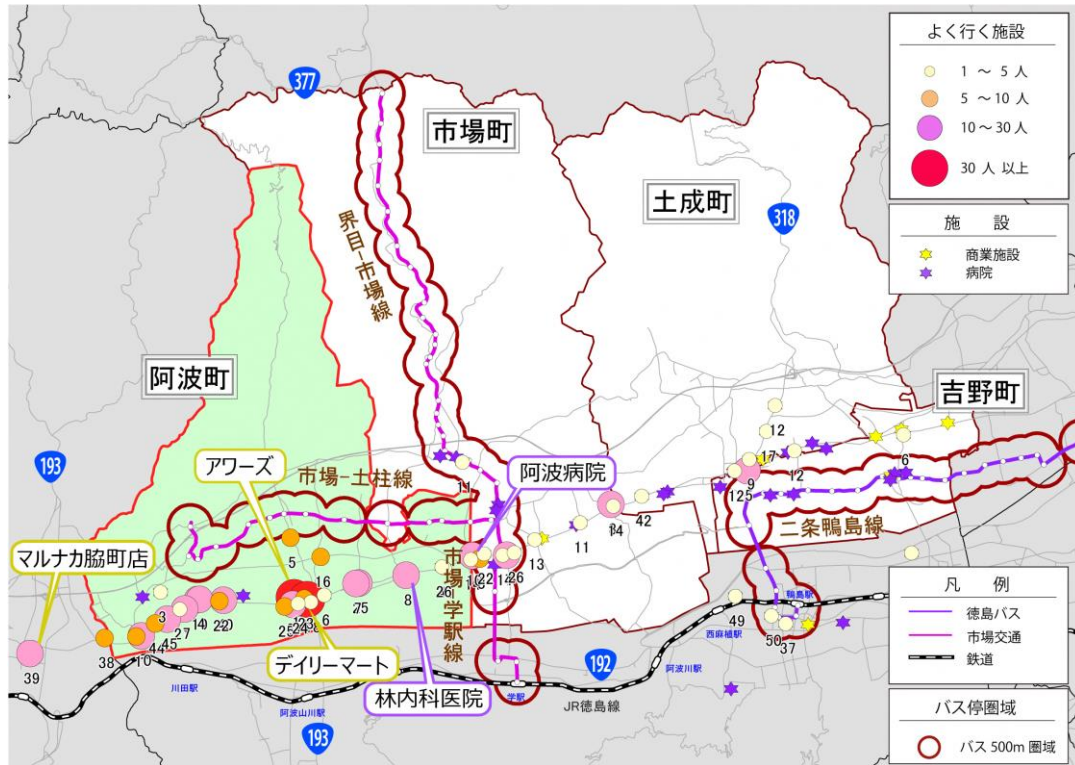


図 3-33 阿波町地区の通院・買物の目的地

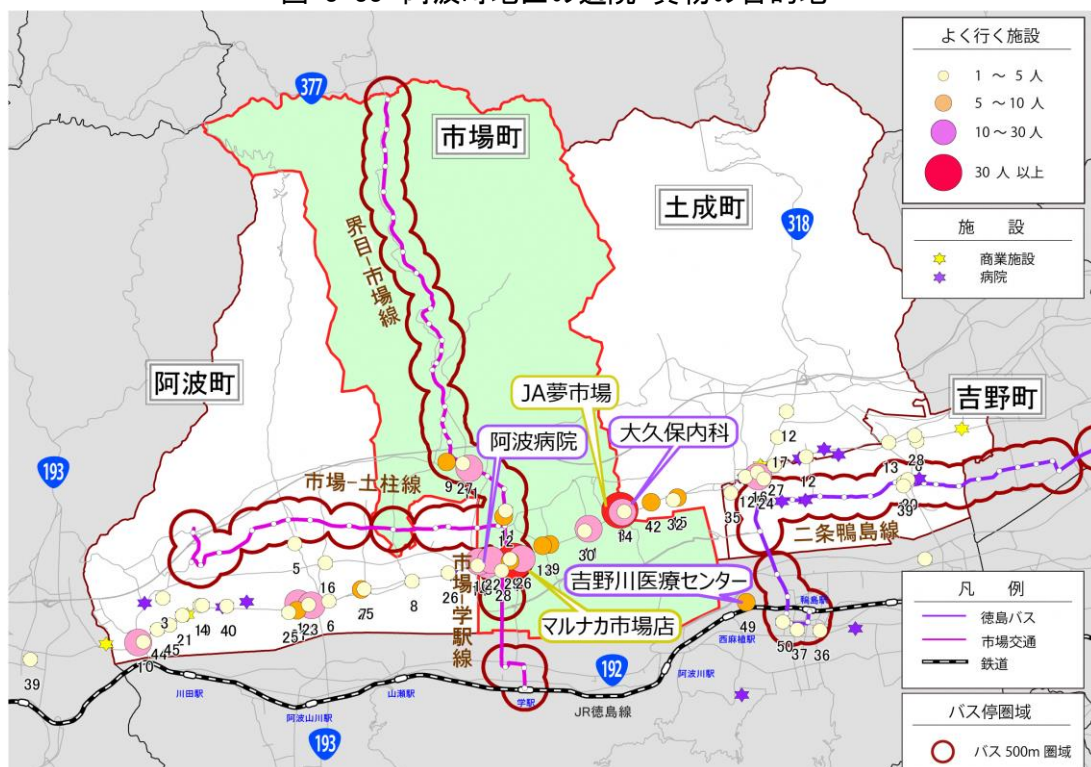


図 3-34 市場町地区の通院・買物の目的地

- 土成町の方の目的地は、買物は吉野町の「マルナカ柿原店」(34件)や土成町の「JA グリーンとなりマルシェ」(10件)、市外では吉野川市の「キョーエイセレブ鴨島店」(7件)が多く、通院は土成町の「大野病院」(14件)や「御所診療所」(8件)が多くなっている。
- 吉野町の方の目的地は、買物は吉野町内の「マルナカ吉野店」(24件)や「マルナカ柿原店」(21件)、市外では吉野川市の「キョーエイセレブ鴨島店」(6件)や「マルナカパワーシティ鴨島店」(8件)が多く、通院は吉野町の「大久保医院」(8件)や土成町の「金塚内科」(7件)が多くなっている。

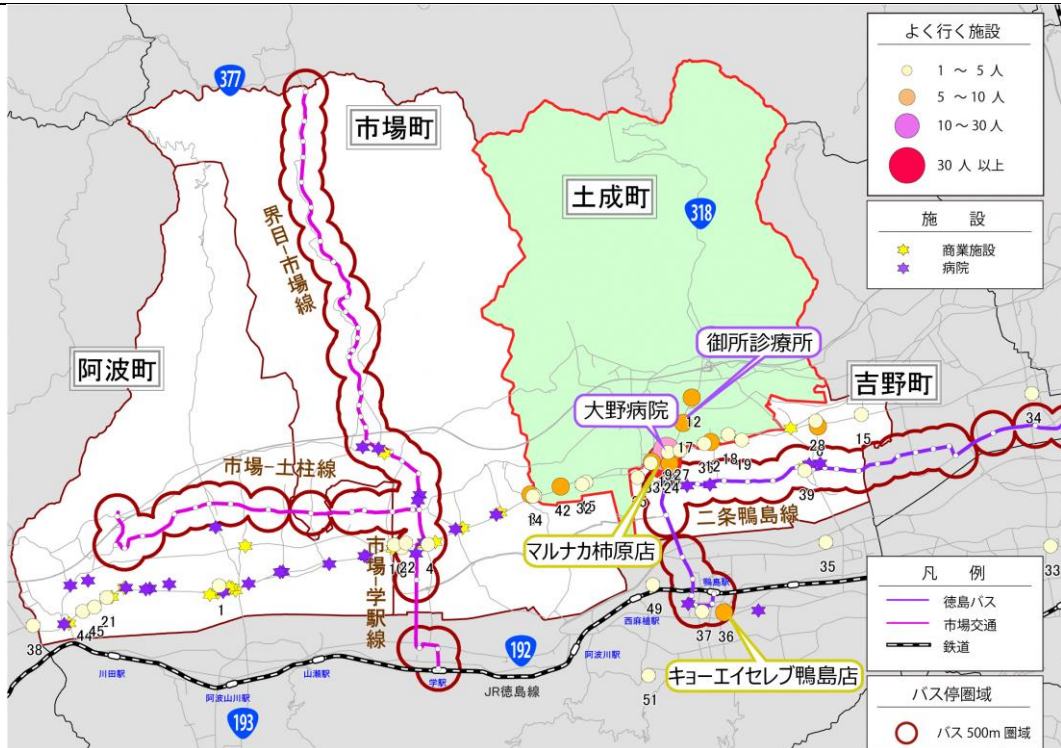


図 3-35 土成町地区の通院・買物の目的地

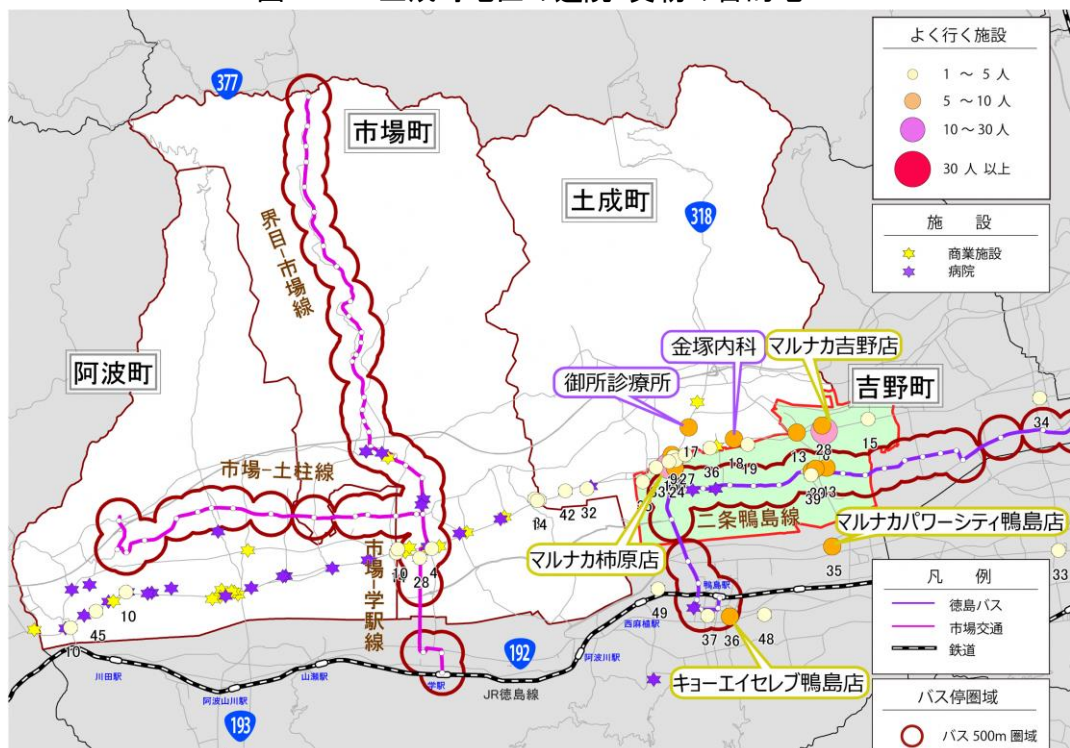


図 3-36 吉野町地区の通院・買物の目的地

(5) 路線バスの利用状況

- 路線バスは吉野町で 29.7%の人が「利用したことがある」と回答しているが、土成町、阿波町では約 6%に留まっており、大半の人が「利用したことがない」と回答している。
- 路線バスが運行されている市場町では、12.2%の利用であり、吉野町と比べ利用率が低い。

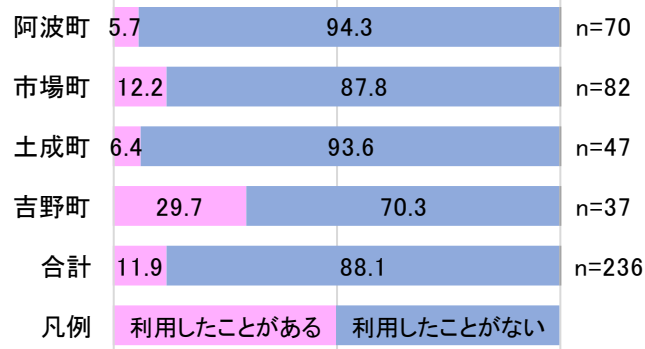


図 3-37 路線バスの利用状況

(6) 路線バス利用が増える条件(路線バスを利用したことがあると回答した方が対象)

- 路線バス利用が増える条件は、阿波町、市場町、吉野町では「運行間隔を短く（運行本数を多く）する」が最も多くなっており、土成町では「バス停に雨よけやベンチをつくる」が多くなっている。また、阿波町、市場町、吉野町では「バスの情報をわかりやすくする」も多くなっている。

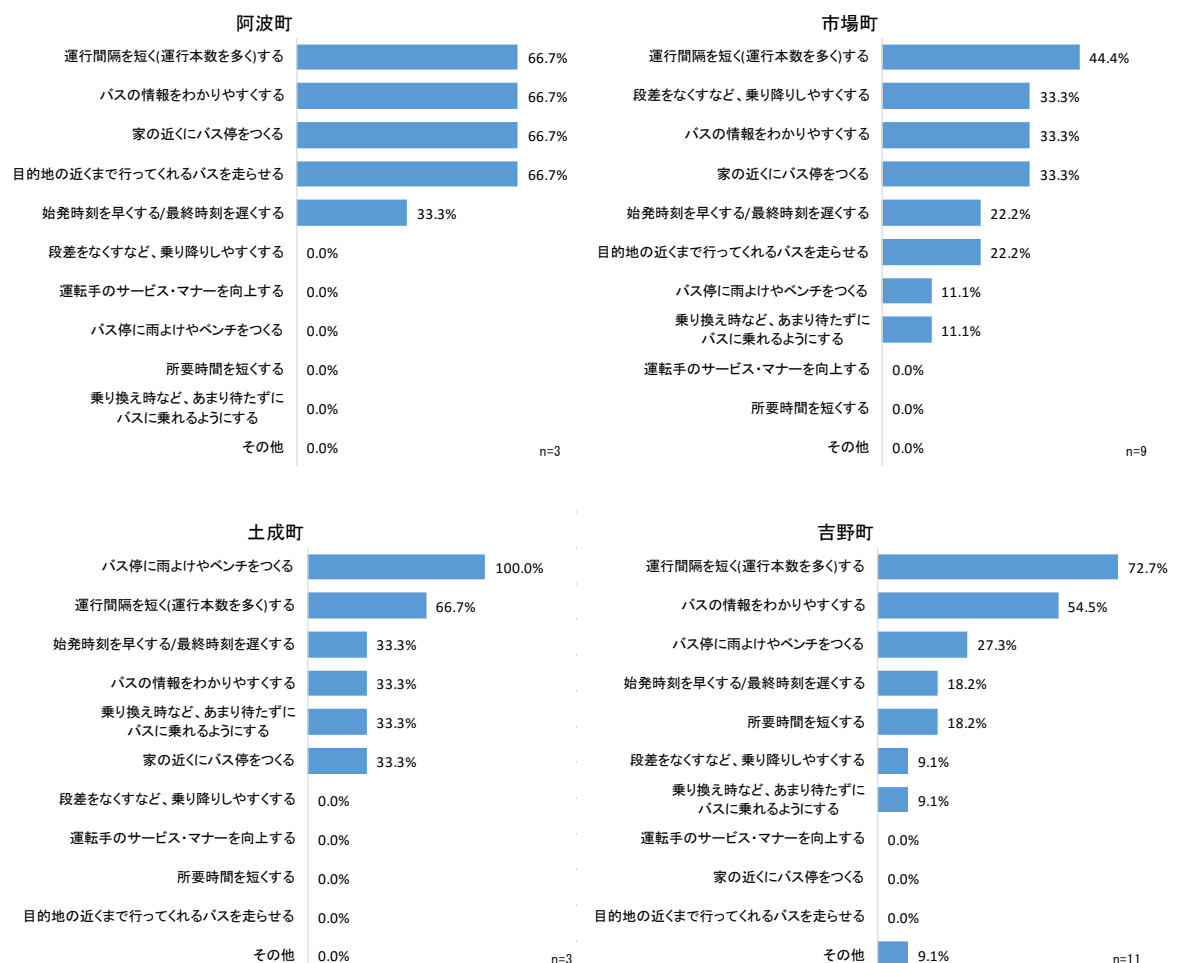


図 3-38 路線バス利用が増えるための条件

(7) 路線バスを利用しない理由(利用したことがないと答えた方が対象)

- 路線バスを利用しない理由は、阿波町と市場町では「目的地まで直接行けるバスがないから」が最も多く、次いで「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が多くなっている。
- 土成町は「バス停・駅まで遠いから」が最も多く、次いで「目的地まで直接行けるバスがないから」と「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が多くなっている。
- 吉野町は「運行本数が少ないから」が最も多く、次いで「目的地まで直接行けるバスがないから」と「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が多くなっている。
- いずれの町も「目的地まで直接行けるバスがないから」が共通で上位となっている。

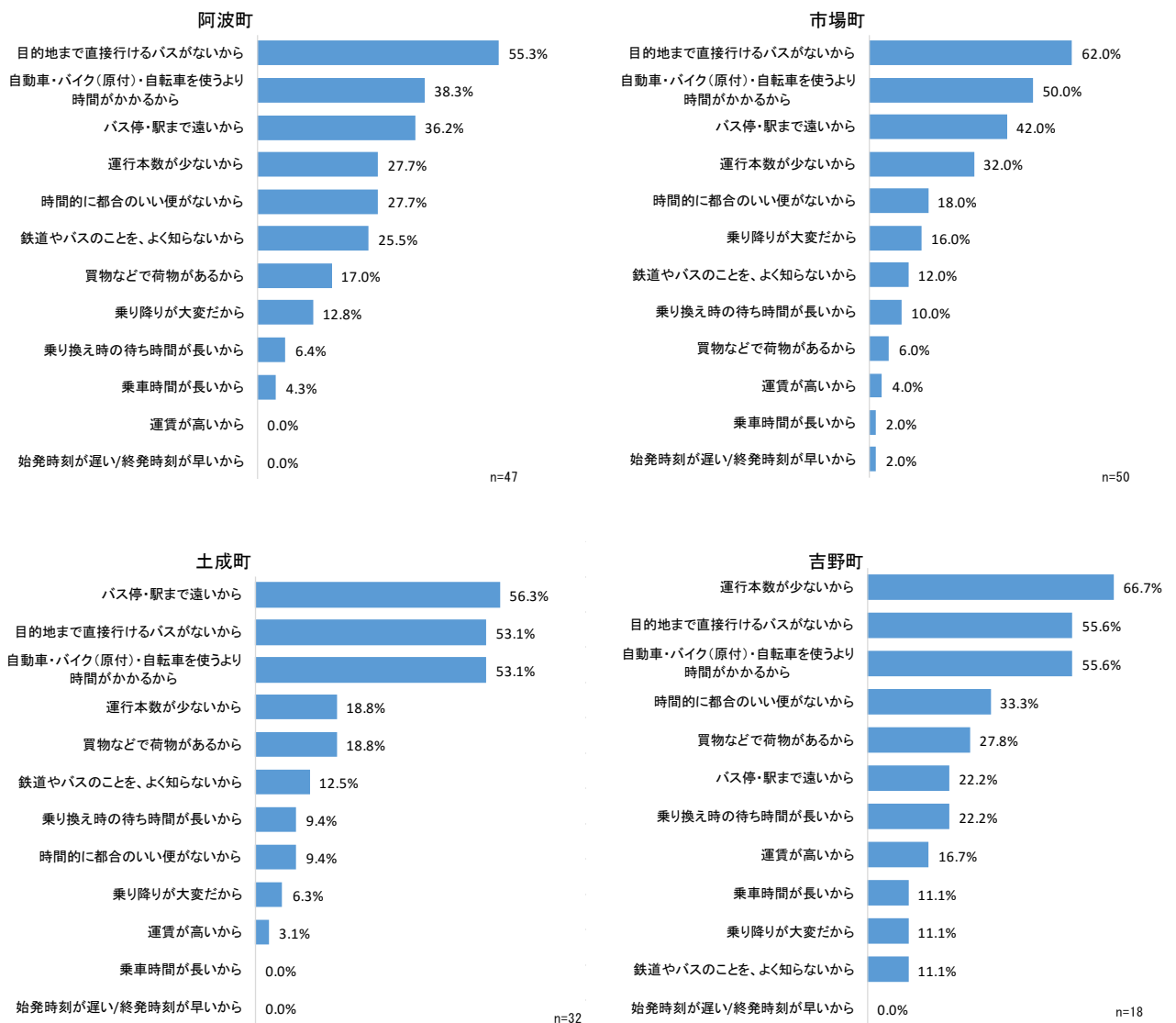


図 3-39 路線バスを利用しない理由(路線バスの非利用者)

(8) 路線バスを利用しない理由がひとつでも改善された場合の利用意向

- 路線バスを利用しない理由がひとつでも改善された場合の利用意向は、「利用する」「利用するかもしれない」を合わせると、阿波町、市場町、吉野町では約6割以上となっているが、土成町は約4割に留まっている。
- 「利用する」に着目すると市場町は30.4%となっているが、吉野町は10.0%に留まる。

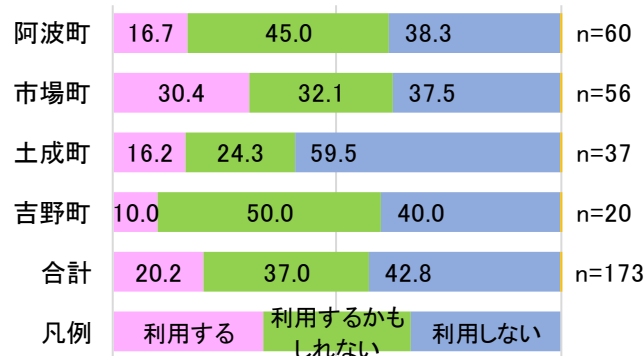


図 3-40 路線バスを利用しない理由がひとつでも改善された場合の利用意向

(9) 自動車運転免許証の返納について

- 自動車運転免許証の返納は、町別に見ると「返納した」が5.9~12.5%とばらつきがある。
- 年齢別に見ると、「返納した」が80~84歳で28.1%、85歳以上で52.6%と多くなっているが、80歳未満では返納する人は少数に留まっている。

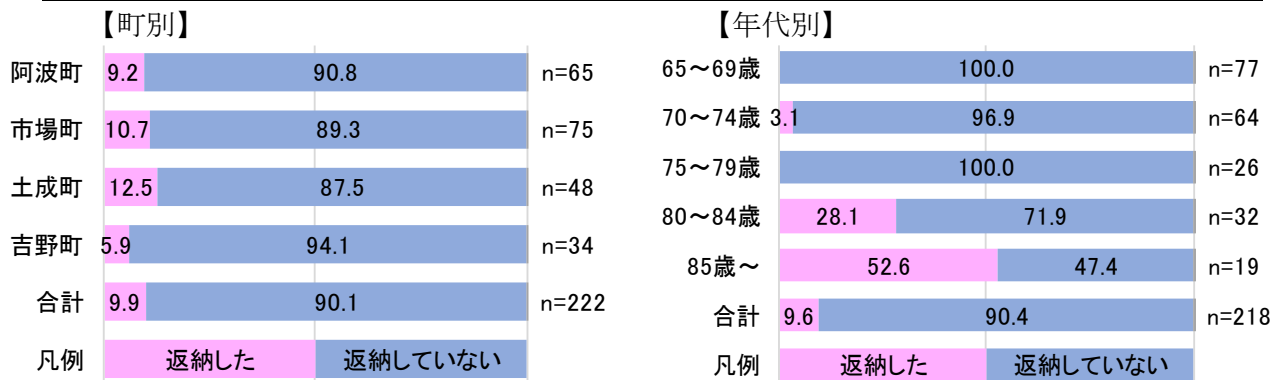


図 3-41 自動車運転免許証の返納状況

(10) 今後の自動車運転免許証の返納意向

- 今後の自動車運転免許証の返納意向は、「数年以内には返納すると思う」はいずれも概ね5%以下と少数に留まっている。

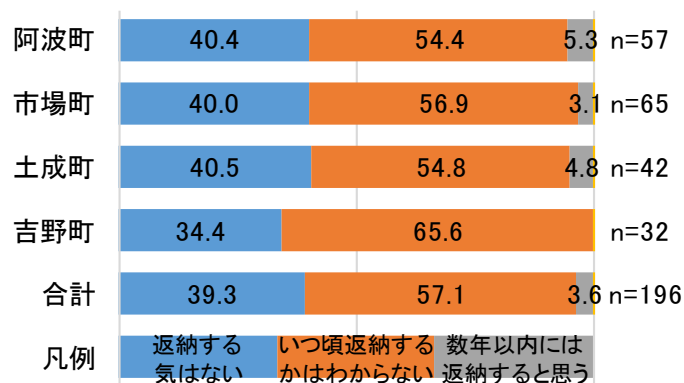


図 3-42 今後の自動車運転免許証の返納意向

(11) 阿波市で運行してほしい公共交通手段

- 阿波市で運行してほしい公共交通手段は、いずれの町も「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」が最も多くなっており、次いで「路線バス」が多くなっている。

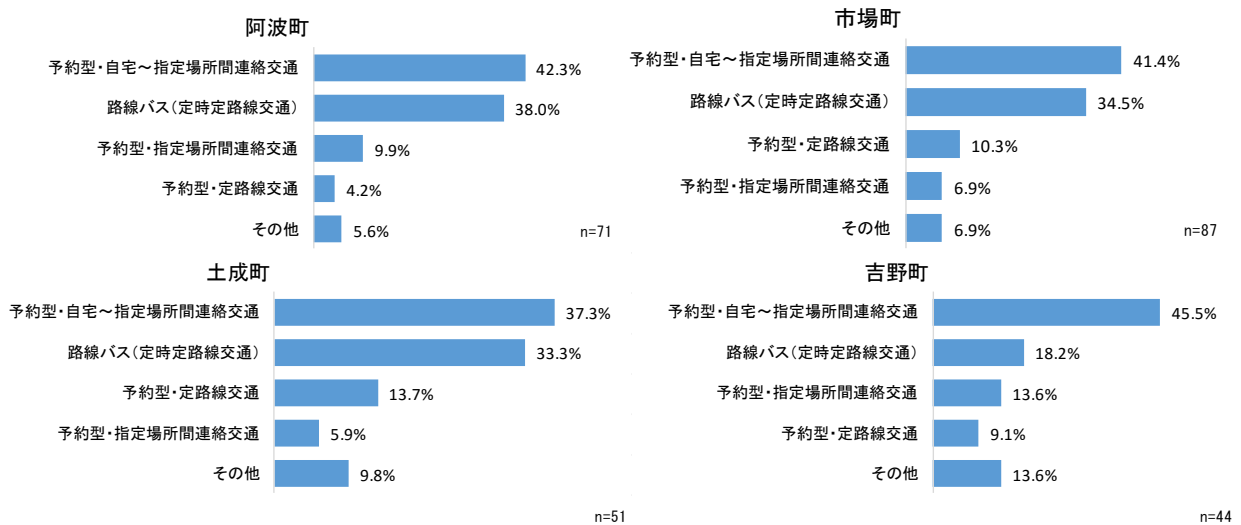
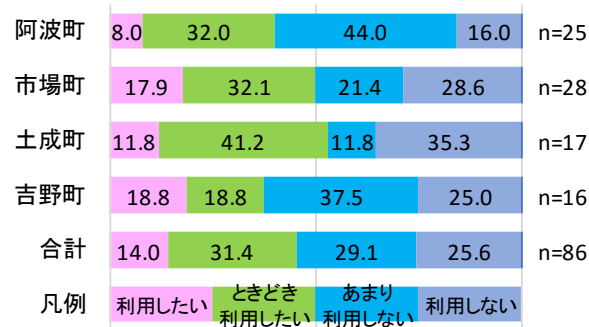


図 3-43 阿波市で運行してほしい公共交通

(12) 希望する公共交通手段が阿波市で運行された場合の利用意向

- 運行希望が最も多かった「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」を運行した場合の利用意向は、「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせて37.6%～53%となっている。
- 阿波町・市場町では「路線バス」で「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせると約6～7割と高くなっている。

(予約型・自宅～指定場所間連絡交通を運行した場合の利用意向)



(各モードを運行した場合の利用意向)

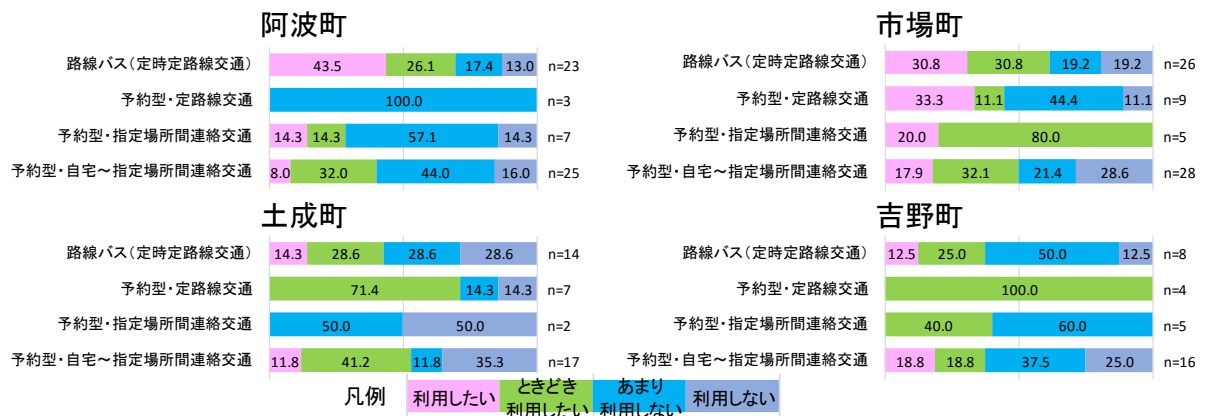


図 3-44 希望する公共交通が運行された場合の利用意向

(13) 公共交通手段を利用する場合、妥当と思う1回の利用料金

- 前述の公共交通を利用する場合に妥当と思う 1 回の利用料金は、阿波町と土成町は 200 円が最も多くなっているが、市場町では 500 円、吉野町では 300 円が多くなっている。傾向として、500 円以内の運賃が妥当という結果になっている。

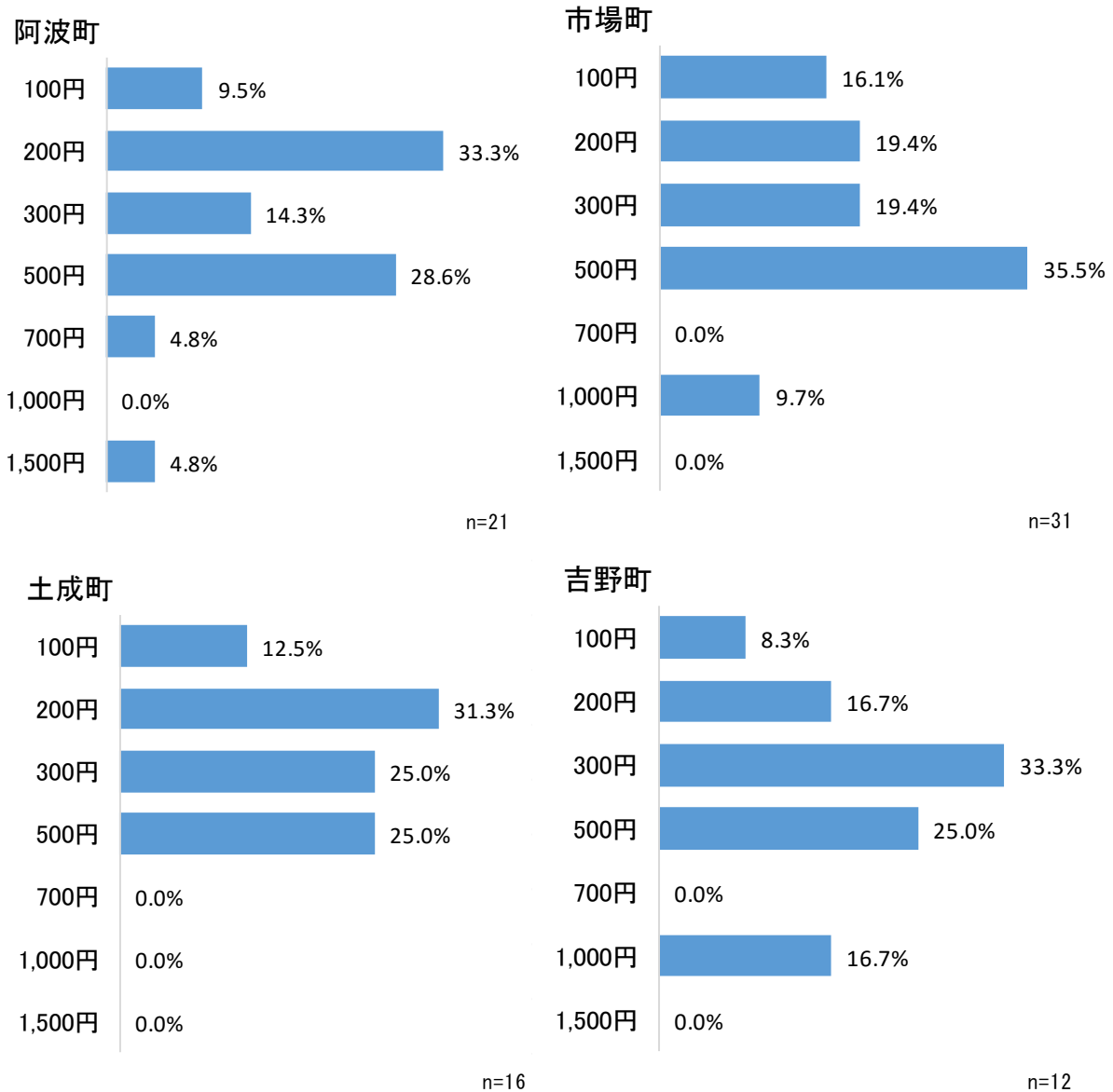
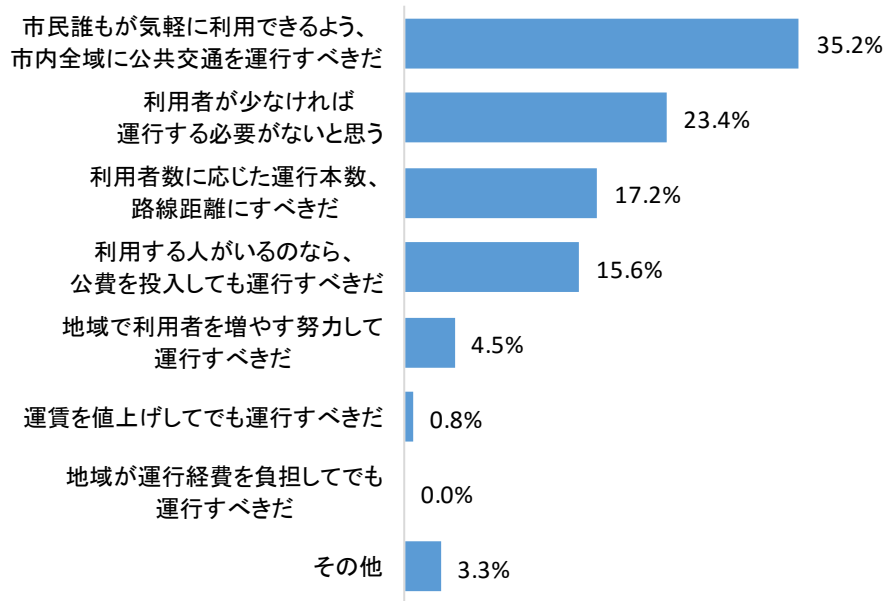


図 3-45 公共交通の希望する1回の利用料金

(14) 今後の阿波市の公共交通について

- 今後の阿波市の公共交通について、「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全域に公共交通を運行すべきだ」が 35.2%と最も多くなっている。



n=244

図 3-46 今後の阿波市の公共交通について

(15) 高齢者アンケート調査からみた課題の整理

高齢者アンケート調査の結果より、以下のことがわかった。

〔アンケートからわかったこと①〕

- ・ 高齢者がよく利用する主要な医療機関や商業施設は、鳴門池田線沿いに点在しており、中核となる総合病院（「阿波病院」）、医療機関（「大野病院」「林内科医院」「大久保内科」「御所診療所」「金塚内科」）や商業施設（「アワーズ」「デイリーマート」「マルナカ市場店・柿原店・吉野店・脇町店」「J A夢市場」「J Aグリーンどなりマルシェ」など）の利用が多くなっている。また、市外では医療機関は吉野川市の「吉野川医療センター」、商業施設では吉野川市の「キョーエイセレクト鴨島店」や「マルナカパワーシティ鴨島店」への移動がみられる。これらのうち、「マルナカ市場店」等一部の店舗を除いて、路線バスの運行経路外の施設が多くなっている。（p3-22、3-23）
- ・ 路線バスの利用について、路線バスが運行されている吉野町は約3割の人が「利用したことがある」と回答しているものの、阿波町、市場町、土成町では約1割と低く、全体でも約1割と低くなっている。（p3-24）
- ・ 路線バス利用が増える条件は、阿波町・市場町・吉野町で「運行間隔を短く（運行本数を多くする）する」が最も多くなっている。また、阿波町・市場町・吉野町では「バス情報をわかりやすくする」も多くなっている。（p3-24）
- ・ 路線バスを利用しない理由は、「目的地まで直接行けるバスがないから」「バス停・駅まで遠いから」「運行本数が少ないから」「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が多く、バス路線、バス停の位置、運行本数が原因と考えられる。（p3-25）
- ・ 路線バスを利用しない理由をひとつでも改善した場合の利用意向は、「利用する」との回答は、市場町で約3割、吉野町でも約1割となっている。「利用する」「利用するかもしれない」を合わせると全体で約6割あり、利用しないとの回答が約4割ある。特に土成町においては約6割の人が利用しないと回答している。（p3-26）
- ・ 運転免許証の返納について、80歳以上で返納が多くなっており、80歳未満では少数に留まっている。返納についての意思是、「いつ頃返納するかわからない」「返納する気はない」が9割を超えている。（p3-26）

路線バスはよく利用されている施設へのアクセスが困難で、利用率は全体で約1割となっており、路線バスの他にも市民の移動ニーズに対応し、運転免許証の返納を促進する交通手段が必要。

〔アンケートからわかったこと②〕

- ・ 阿波市で運行して欲しい公共交通手段は、「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」への希望が多く、次いで「路線バス」となっている。（p3-27）
- ・ 希望が多い「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」を導入した場合の利用意向は、「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせると約4～5割、「路線バス」については約4～7割となっており、阿波町・市場町では6割を超えている。（p3-27）
- ・ 今後の阿波市の公共交通について、「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全体に公共交通を運行すべき」との意見が約4割と最も多くなっている。（p3-29）

市全域で、市民誰もが気軽に利用できる公共交通として、「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」の運行検討が必要。

3.3 路線バス沿線住民アンケート調査

1) 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、路線バスの沿線に居住している方の現況における移動状況や公共交通の利用状況のほか、移動ニーズや、今後の公共交通整備に対する意見等を把握することを目的として実施した。

(2) 調査対象

調査対象は、阿波市民のうち、路線バス沿線地域（小字）に居住する満 19 歳以上の男女のなかから無作為に抽出した 800 名の方とした。（土成町は路線バスが運行していないため対象外）

(3) 調査方法

郵送配布・郵送回収とした。

(4) 調査日時

配布 : 平成 29 年 8 月 21 日（月）

回収 : 平成 29 年 9 月 5 日（火）

※調査結果の集計は、平成 29 年 9 月 8 日（金）到着分までを対象としている。

(5) 配布数・回収数

配布数および回収数は、下表のとおり。

表 3-3 路線バス沿線住民アンケート調査票の配布・回収状況

配布数	回収数	回収率
800 票	265 票	33.1 %

2) 調査結果

調査結果集計に当たり、設問毎に回答を集計し、不整合の場合も得られた回答は集計対象とした。また、無回答は除外していること、小数点表示の関係等で合計が合わない場合がある。

(1) 性別

- 性別は女性が6割と男性に比べて多くなっている。

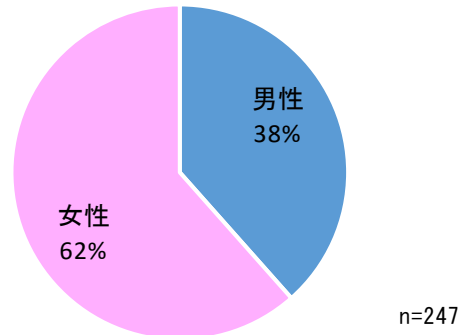


図 3-47 性別

(2) 年齢

- 年齢は19～75歳以上の多様な年齢構成となっている。
- 65歳以上の高齢者が約半数となっている。

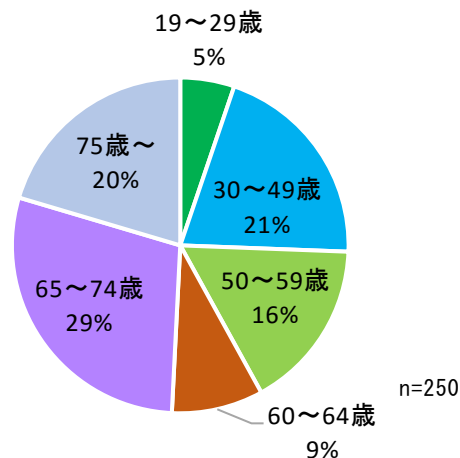


図 3-48 年齢

(3) 居住地

- 居住地は市場町が42%と最も多く、次いで吉野町、阿波町となっている。

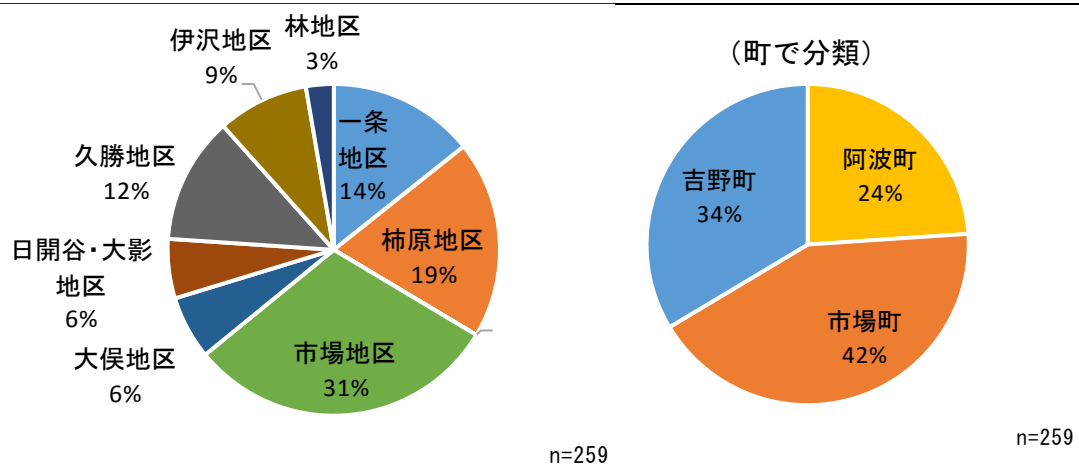


図 3-49 居住地

(4) 路線バスの利用状況

- 路線バスの利用状況は、「利用したことがある」は吉野町で 41.9%と比較的高くなっているが、市場町では 23.3%、阿波町では 10.9%と低調な利用状況となっている。

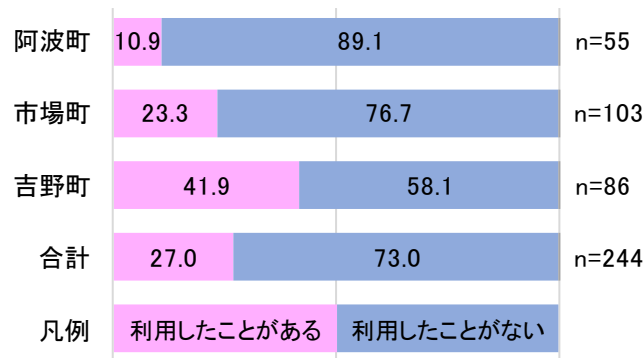


図 3-50 路線バスの利用状況

(5) 路線バス利用が増える条件(路線バスを利用したことがあると回答した方が対象)

- 路線バス利用が増える条件は、市場町、吉野町では「運行間隔を短く（運行本数を多く）する」が最も多くなっており、次いで市場町では「目的地の近くまで行ってくれるバスを走らせる」、吉野町では「バスの情報をわかりやすくする」が多くなっている。
- 阿波町では「家の近くにバス停をつくる」が最も多く、次いで「運行間隔を短く（運行本数を多く）する」が多くなっている。

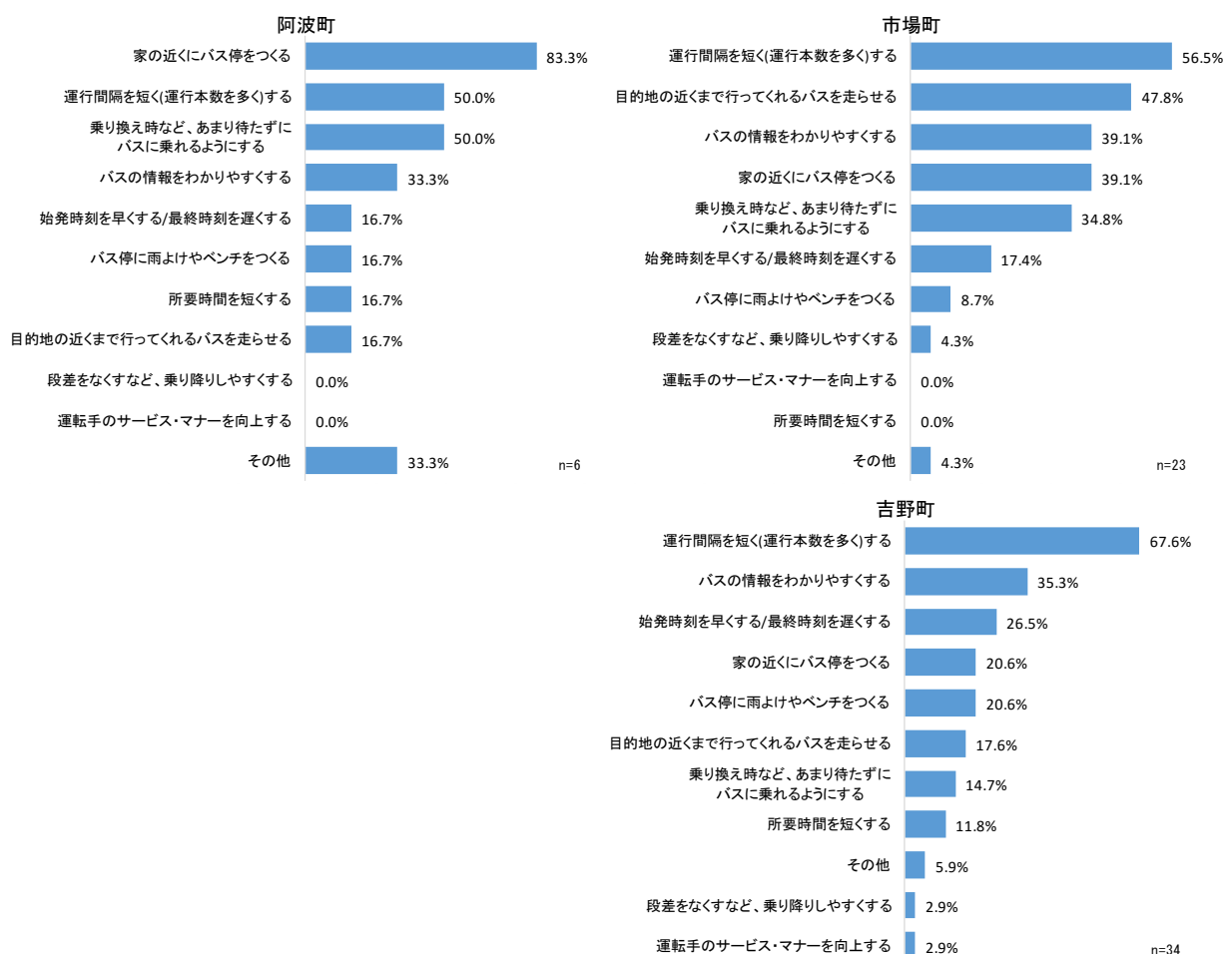


図 3-51 路線バス利用が増える条件(路線バスの利用者)

(6) 路線バスを利用しない理由(利用したことがないと答えた方が対象)

- 路線バスを利用しない理由は、阿波町では「目的地まで直接行けるバスがないから」が最も多く、次いで「運行本数が少ないから」が多くなっており、市場町では「運行本数が少ないから」が最も多く、次いで「目的地まで直接行けるバスがないから」が多くなっている。阿波町と市場町は上位2位までが同じ理由となっている。
- 吉野町は「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が最も多く、次いで「運行本数が少ないから」が多くなっている。
- いずれの町も「運行本数が少ないから」「目的地まで直接行けるバスがないから」「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が共通で上位となっている。

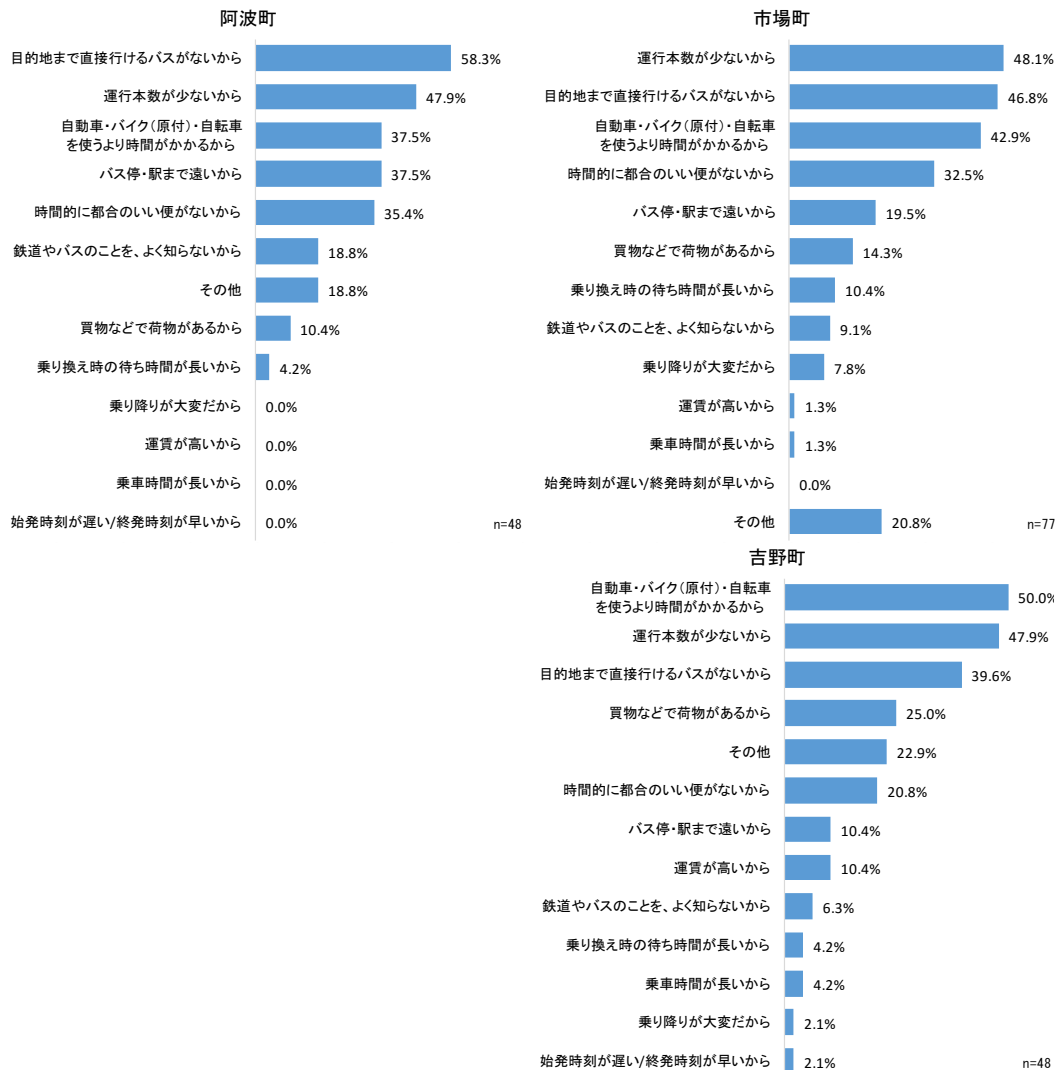


図 3-52 路線バスを利用しない理由(路線バスの非利用者)

(7) 路線バスを利用しない理由がひとつでも改善された場合の利用意向

- 路線バスを利用しない理由がひとつでも改善された場合の利用意向は、「利用する」「利用するかもしれない」を合わせると概ね半数以上となるが、「利用する」に着目すると阿波町は31.1%となっているが市場町は9.5%、吉野町は2.3%に留まる。

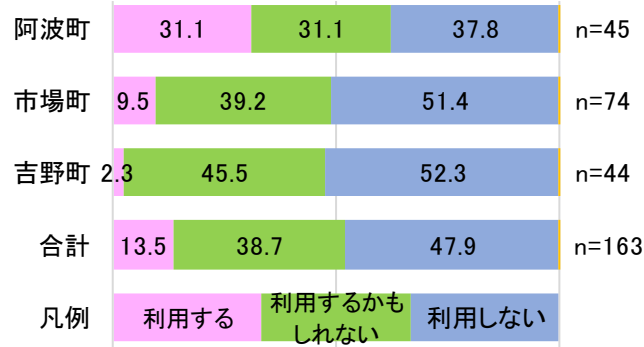


図 3-53 路線バスを利用しない理由がひとつでも改善された場合の利用意向

(8) 阿波市で運行してほしい公共交通手段

- 阿波市で運行してほしい公共交通手段は、いずれの町も「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」が最も多くなっており、次いで「路線バス」が多くなっている。

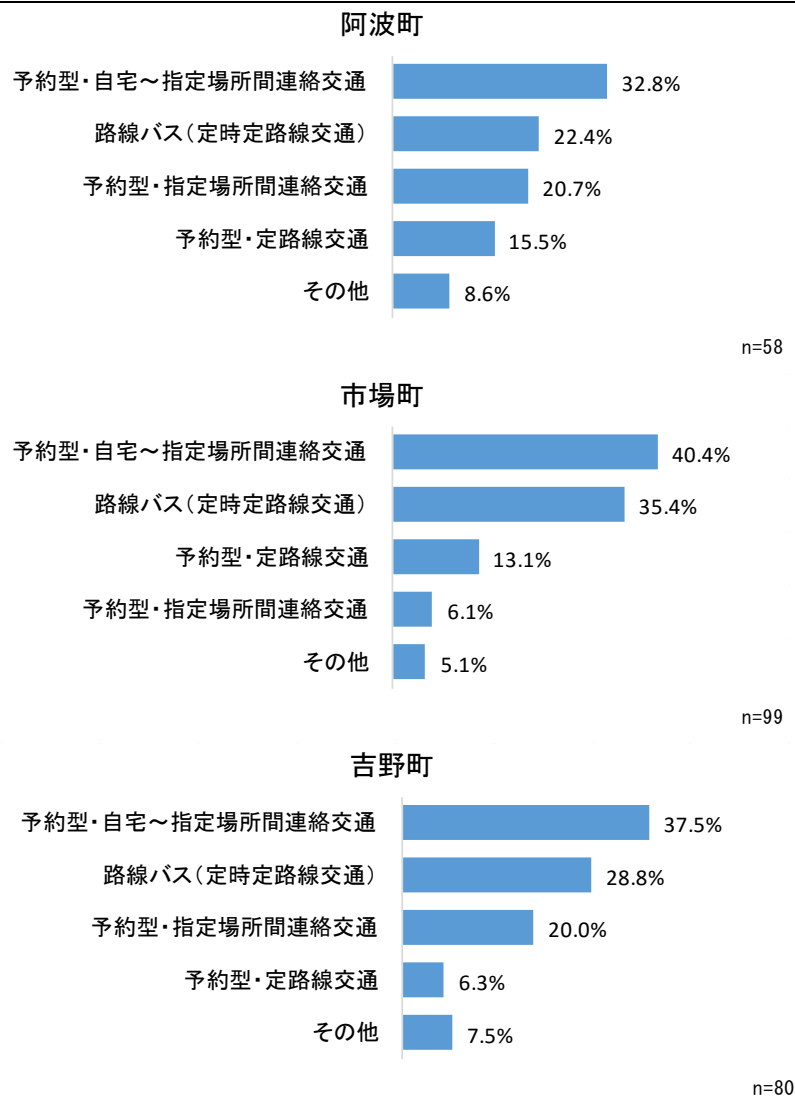


図 3-54 阿波市で運行してほしい公共交通手段

(9) 希望する交通手段が阿波市で運行された場合の利用意向

- 運行希望が最も多かった「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」を運行した場合の利用意向は、「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせて32.1%～51.3%となっている。
- 各モードを運行した場合の利用意向について、「利用したい」「ときどき利用したい」に着目すると、阿波町では「路線バス」で最も高くなっており、次いで「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」で高くなっている。
- 市場町では「予約型・定路線交通」で高く、吉野町では「予約型・定路線交通」と「予約型・指定場所間連絡交通」が同程度となっている。

(予約型・自宅～指定場所間連絡交通を運行した場合の利用意向)



(各モードを運行した場合の利用意向)

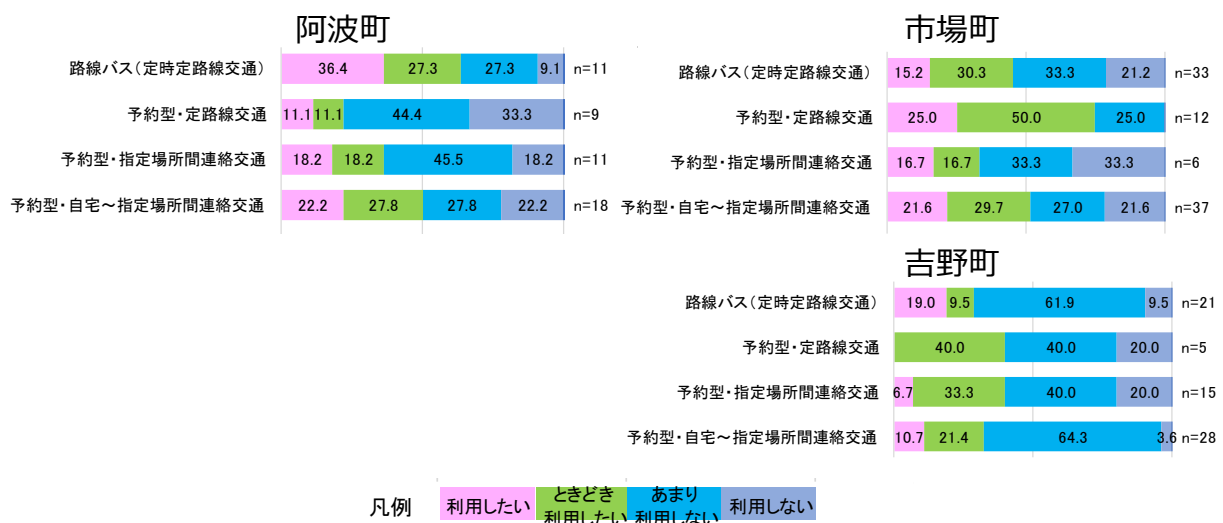


図 3-55 希望する交通手段が運行された場合の利用意向

(10) 公共交通手段を利用する場合の妥当な1回の利用料金

- 公共交通手段を利用する場合の妥当な1回の利用料金は、阿波町は200円が最も多く、市場町は200円と500円が同程度となっており、吉野町は300円が最も多くなっている。傾向として、500円以内の運賃が妥当という結果になっている。

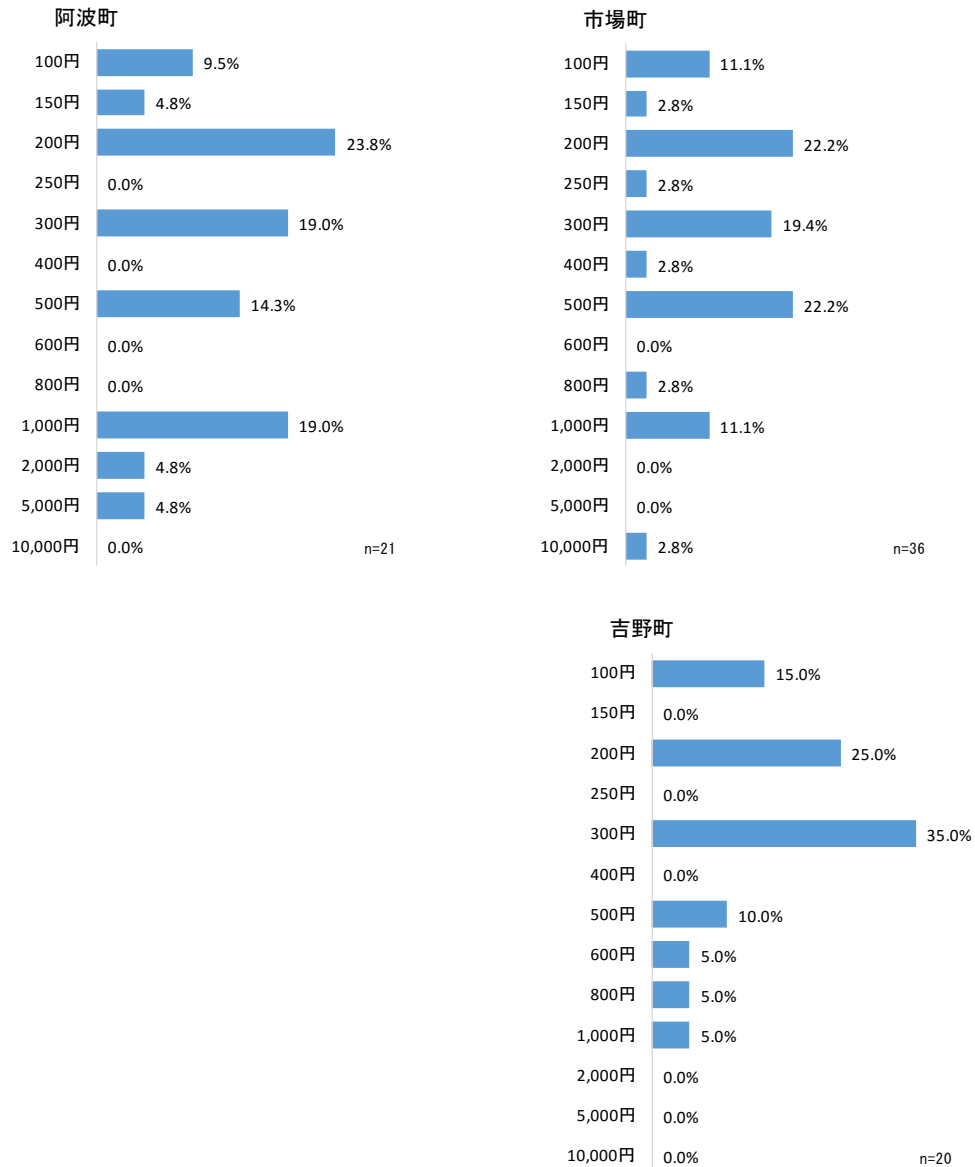


図 3-56 希望する公共交通の1回の利用料金

(11) 今後の公共交通について

- 今後の公共交通について、いずれの町でも「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全域に公共交通を運行すべきだ」が最も高くなっている。
- 阿波町では、この他「利用者数に応じた運行本数、路線距離にすべきだ」「利用者が少なければ運行する必要があると思う」がいずれも同程度となっている。
- 市場町では、次いで多いのが「利用する人がいるのなら、公費を投入しても運行すべきだ」「利用者が少なければ運行する必要があると思う」がいずれも同程度となっている。
- 吉野町では、次いで多いのが「利用者数に応じた運行本数、路線距離にすべきだ」となっている。

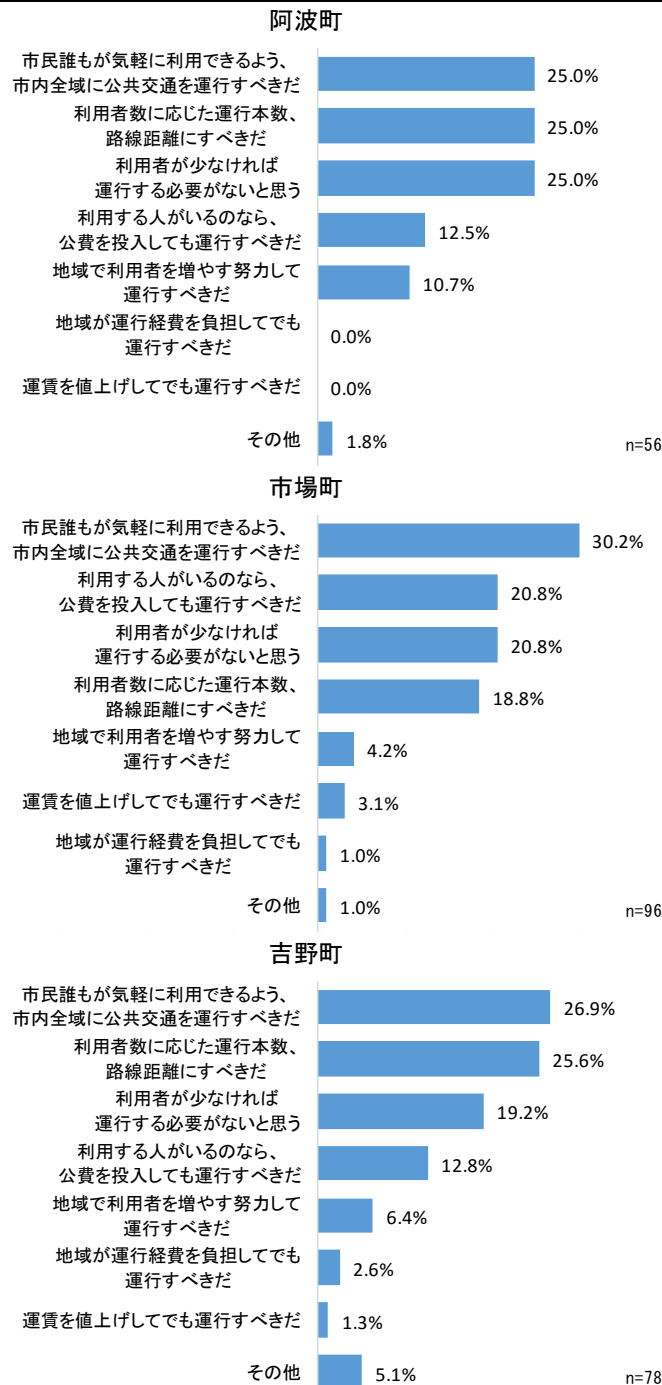


図 3-57 今後の公共交通について

(12) 路線バス沿線住民アンケート調査からみた課題の整理

路線バス沿線住民アンケート調査の結果より、以下が課題と考えられる

〔アンケートからわかったこと①〕

- ・路線バスの利用状況は「利用したことがある」は吉野町で約4割と比較的多くなっているが、市場町で約2割、阿波町で約1割と低調となっており、路線バスの利用が増える条件は「家の近くにバス停を作る」「運行間隔を短く（運行本数を多く）する」「目的地の近くまで行ってくれるバスを走らせる」「バスの情報をわかりやすくする」が多くなっている。（p3-33）
- ・路線バスを利用したことがない方の「利用しない理由」は、「目的地まで直接いけるバスが無い」「運行本数が少ない」「自動車等を使うより時間がかかる」が多くなっている。（p3-34）
- ・路線バスを利用しない理由をひとつでも改善した場合「利用する」との回答は、阿波町で約3割となっているが、市場町、吉野町では1割未満に留まっている。「利用する」「利用するかもしれない」を合わせると全体で約5割あり、「利用しない」との回答が約5割ある。特に市場町・吉野町では利用しないという意見が多い。（p3-35）

路線バスはバス路線やバス停の位置、運行本数を改善した場合でも、「利用しない」が約5割存在しており、市民の移動ニーズに対応する交通手段が必要。

〔アンケートからわかったこと②〕

- ・阿波市で運行して欲しい公共交通手段は、「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」への希望が多く、次いで「路線バス」への希望が多い。（p3-35）
- ・「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」を導入した場合の利用意向は、「利用したい、ときどき利用したい」を合わせると約3割～約5割となっており、市場町・阿波町については5割を超えている。「路線バス」については、約3割～約6割となっており、阿波町については6割を超えている。（p3-36）
- ・今後の公共交通については、いずれの町でも「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全体に公共交通を運行すべきだ」が最も多い。（p3-38）

市全域で、市民誰もが気軽に利用できる公共交通として、「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」の運行検討が必要。

3.4 高校生アンケート調査

1) 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、阿波市内の高校、および阿波市周辺に位置する高校に阿波市内から通学する学生について、現況における移動状況や公共交通の利用状況のほか、移動ニーズや今後の公共交通整備に対する意見等を把握することを目的として実施した。

(2) 調査対象

調査対象は、以下のとおりとした。

- ・阿波市内の高校に通学する、2年生の全学生
- ・阿波市周辺に位置する高校に阿波市内から通学する、2年生の学生

(3) 調査方法

学校を通じた直接配布、直接回収とした。

(4) 調査日時

配布及び回収 : 平成 29 年 8 月 30 日 (木) から平成 29 年 9 月 22 日 (金)

(5) 配布数・回収数

配布数および回収数は、下表のとおり。

表 3-4 高校生アンケート調査票の配布・回収状況

所在地	高校名	配布数	回収数	回収率
阿波市	阿波高校	198 票	121 票	61 %
	阿波西高校	78 票	71 票	91 %
吉野川市	吉野川高校	33 票	31 票	94 %
	川島高校	14 票	11 票	79 %
美馬市	脇町高校	37 票	37 票	100 %
つるぎ町	つるぎ高校	20 票	19 票	95 %
	合 計	380 票	290 票	76 %

2) 調査結果

調査結果集計に当たり、設問毎に回答を集計し、不整合の場合も得られた回答は集計対象とした。また、無回答は除外していること、小数点表示の関係等で合計が合わない場合がある。

(1) 性別

- 性別は男性・女性とも5割となっている。

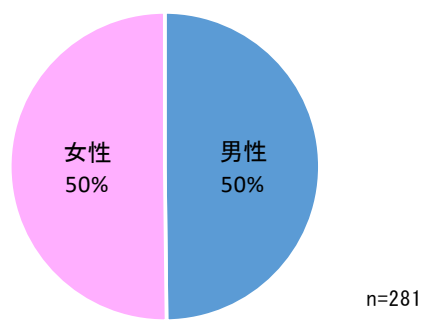


図 3-58 性別

(2) 学校別居住地

- 阿波高校は市外からの通学者が過半数を占めており、阿波西高校、川島高校、つるぎ高校、脇町高校は林地区や市場地区、吉野川高校は御所地区や土成地区からの通学が多くなっている。
- 地区別では、市内の阿波高校と阿波西高校を合わせると過半数になっている地区が多いが、御所地区は吉野川高校、大俣地区は脇町高校が多くなっている。

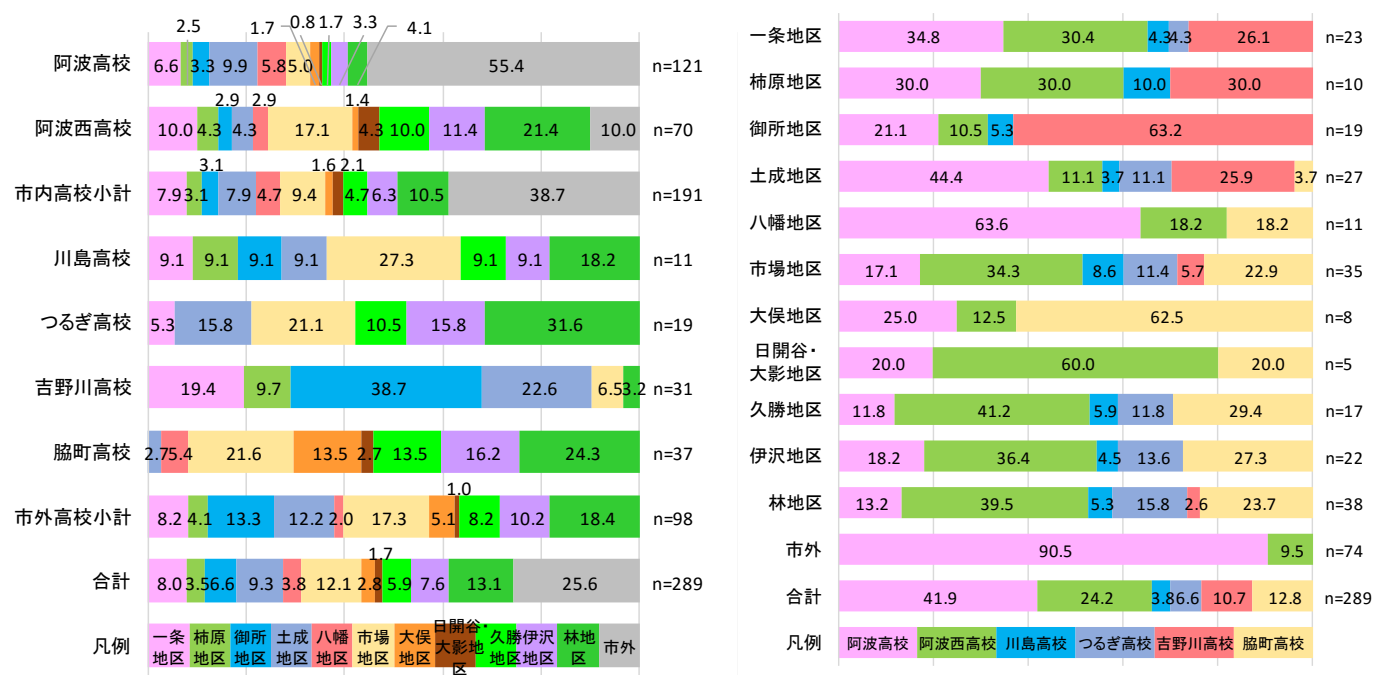


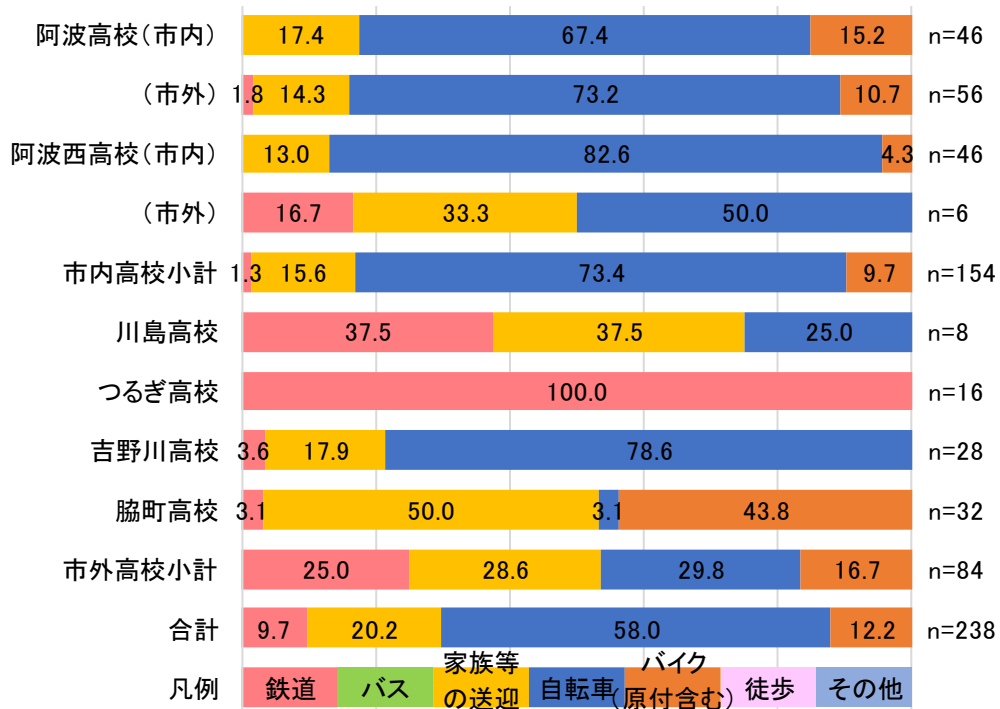
図 3-59 学校別居住地区と居住地区別学校

表 3-5 阿波市外から阿波高校、阿波西高校へ通学する学生の居住地構成

	鴨島	鴨島町	吉野川市	鴨島町	吉野川市	山川町	吉野川市	山川町	吉野川市	川島町	吉野川市	川島町	桑村	山川町	上板	上板町	石井町	川島町	板野町	美馬市穴吹	市外計
阿波高校	1	2	0	25	5	0	3	1	1	1	21	2	1	4	0	67					
阿波西高校	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	7					

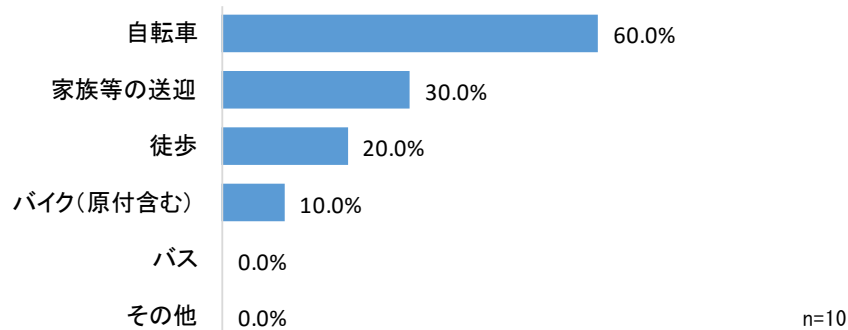
(3) 利用している交通手段(登校時・下校時とも概ね同じ交通手段を選んだ方)

- 利用している交通手段は、阿波高校は市内居住者、市外居住者とも自転車が約 6～7 割と最も多く、阿波西高校は市内居住者は自転車が約 8 割、市外居住者は約 5 割となっている。また、阿波市から市外の高校への通学として、川島高校は鉄道と家族等の送迎が約 4 割、つるぎ高校は全て鉄道、吉野川高校は自転車が約 8 割、脇町高校は家族等の送迎が約 5 割となっている。脇町高校ではバイクも約 4 割と多くなっている。いずれの高校にもバスの利用者はいない。
- 鉄道駅利用者の乗り換え手段については、自転車が 6 割と多くなっており、次いで家族の送迎が 3 割となっている。バスの利用者はいない。



※阿波高校と阿波西高校は市内居住者と市外居住者別に分けて集計

(鉄道利用者の乗り換え手段)



※高校計で 10 人のため合算値を提示

図 3-60 登下校時の交通手段

(4) 雨や雪の日の登下校時に交通手段を変えるか

- 雨や雪の日の登下校時に交通手段を変更する人は半数弱となっている。

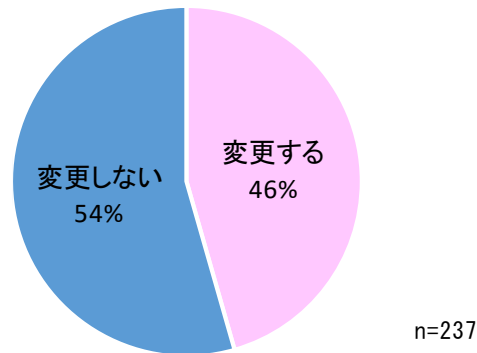
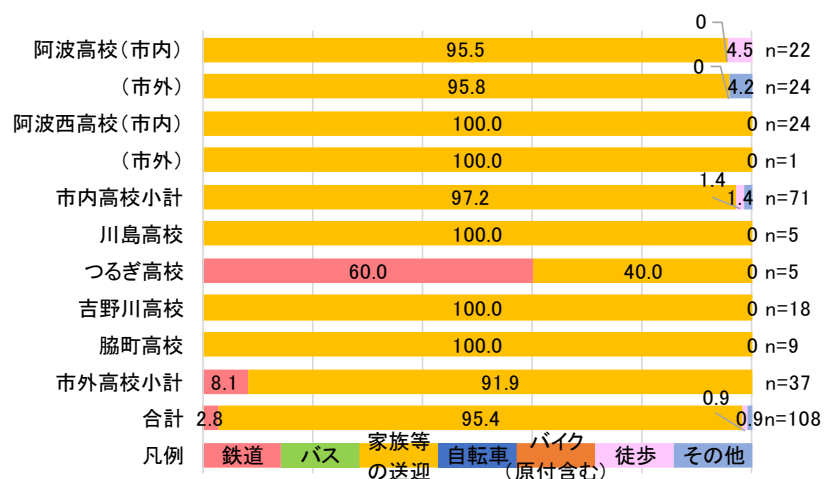


図 3-61 雨や雪の日の交通手段を変えるか

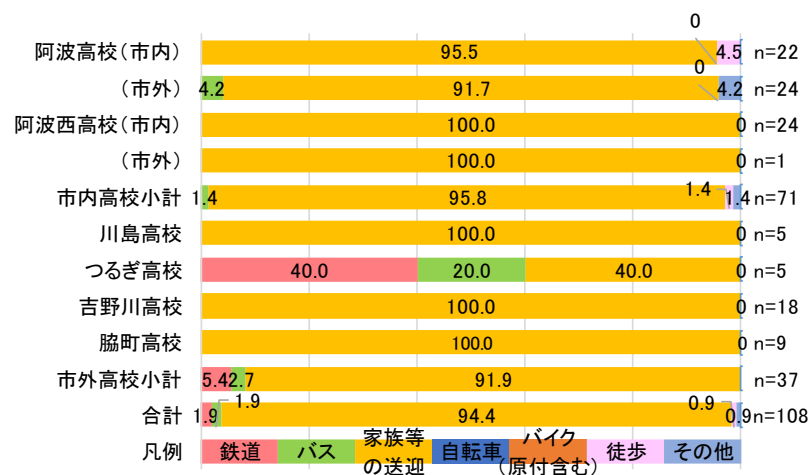
(5) 雨や雪の日変更する交通手段

- 雨や雪の日に変更する交通手段は、いずれの高校も登下校とも家族の送迎が大半を占めている。登校時、つるぎ高校の鉄道利用者のうち、約4割が「家族等の送迎」に変わっている。
- 下校時には阿波高校の市外通学者やつるぎ高校でバスの利用がある。

(登校時)



(下校時)



※阿波高校と阿波西高校は市内居住者と市外居住者別に分けて集計

図 3-62 雨や雪の日に変更する交通手段

(6) 阿波市内の路線バスの認知状況(通学でバスを利用していない方)

- 通学でバスを利用していない人のうち、阿波市内の路線バスを知っていた人は約4割となっており、約6割が「知らなかった」となっている。

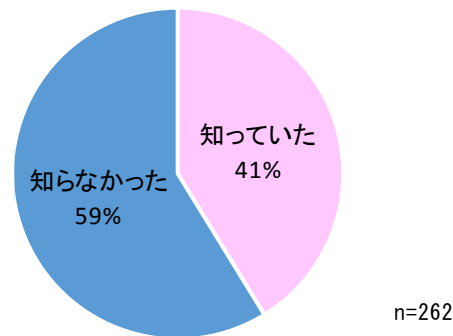


図 3-63 路線バスの認知状況

(7) バスを利用しない理由(通学でバスを利用していない方)

- バスを利用しない理由は、「徒歩、自転車で通学できる」が約6割と最も多く、次いで「近くにバス停が無い」が約4割、「運行本数が少なくて不便」が約3割となっている。

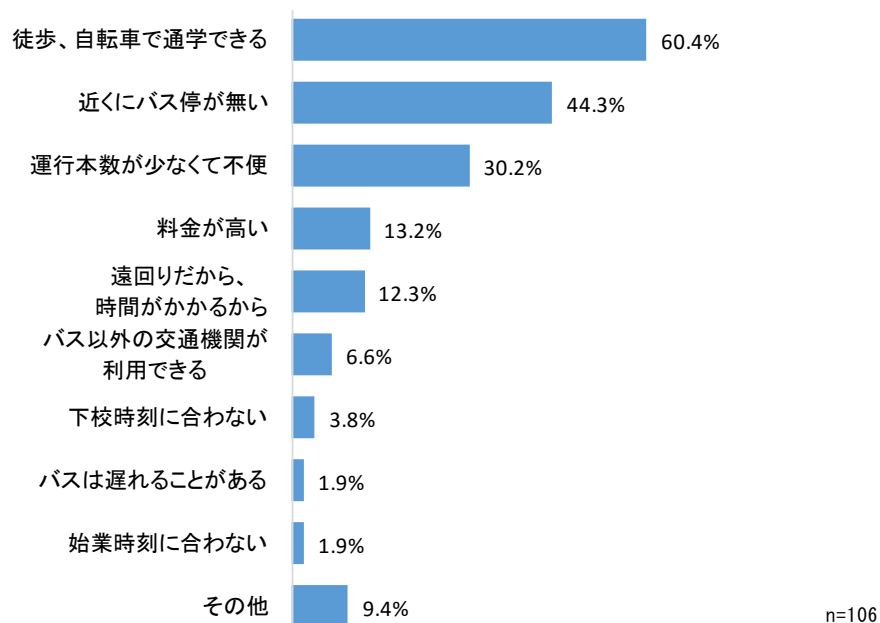
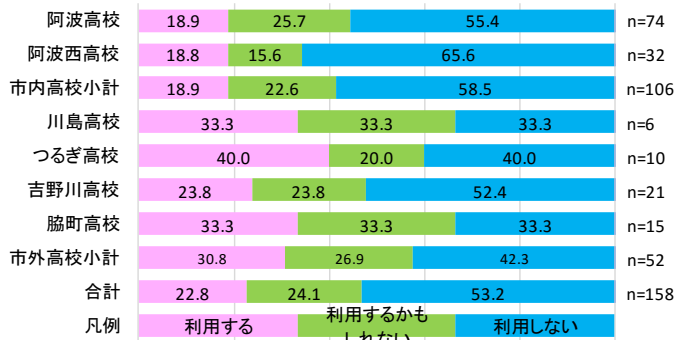


図 3-64 バスを利用しない理由

(8) 路線バスを利用しない理由がひとつでも改善された場合の利用意向

- 路線バスを「利用しない理由」がひとつでも改善された場合の利用意向は、市合計では「利用する」と「利用するかもしれない」を合わせて半数弱となっている。
- 高校別では、「利用する」と「利用するかもしれない」を合わせて、川島高校、つるぎ高校、脇町高校で半数を超えているが、その他の高校は半数未満となっている。
- 「利用する」と「利用するかもしれない」の人数の割合は御所地区や久勝地区で比較的多く、八幡地区、大俣地区、伊沢地区、林地区で半数以上となっている。

〔高校別の改善後の利用意向〕



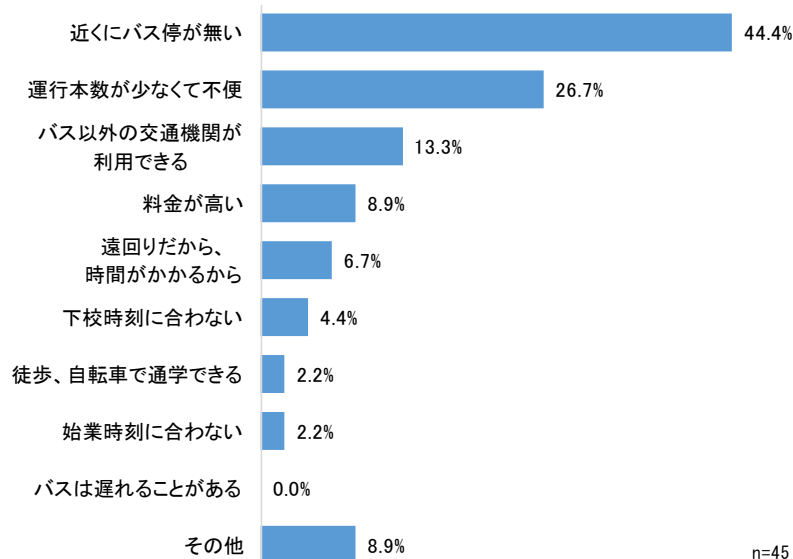
〔高校・居住地別の「利用する」、「利用するかもしれない」の人数〕

地区	利用する・利用するかもしれない							総計	利用する・利用するかもしれない (%)
	阿波高校	阿波西高校	川島高校	つるぎ高校	吉野川高校	脇町高校	計		
一条地区	1	2	1	0	2	0	6	15	40.0%
柿原地区	1	0	0	0	1	0	2	6	33.3%
御所地区	2	0	0	0	6	0	8	12	66.7%
土成地区	2	3	0	2	1	0	8	21	38.1%
八幡地区	3	0	0	0	0	1	4	8	50.0%
市場地区	0	1	2	1	0	3	7	17	41.2%
大俣地区	1	0	0	0	0	2	3	6	50.0%
日開谷・大影地区	0	0	0	0	0	0	0	2	0.0%
久勝地区	0	1	1	0	0	1	3	5	60.0%
伊沢地区	2	1	0	2	0	2	7	13	53.8%
林地区	3	2	0	1	0	1	7	14	50.0%
市外	18	1	0	0	0	0	19	38	50.0%
合計	33	11	4	6	10	10	74	157	-

図 3-65 改善後の利用意向

(9) 利用するために改善してほしい内容

- 利用するために改善してほしい内容は「近くにバス停が無い」が約4割と最も多くなっている。



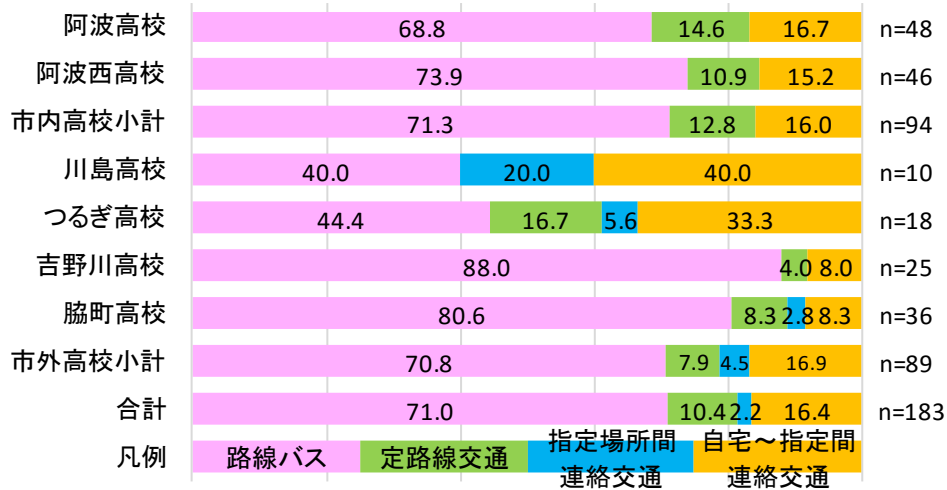
n=45

図 3-66 利用するために改善してほしい内容

(10) 将来、阿波市で運行してほしい交通手段

- 将来、阿波市で運行して欲しい交通手段は、阿波高校、阿波西高校、吉野川高校、脇町高校で約69～88%が「路線バス」となっている。
- 川島高校、つるぎ高校では「路線バス」が多いものの、「自宅～指定間連絡交通」が他高校よりも多くなっている。

〔将来、阿波市で運行してほしい交通手段〕



〔路線バスを希望する高校・居住地区〕

	一条地区	柿原地区	御所地区	土成地区	八幡地区	市場地区	大俣地区	日開谷・大影地区	久勝地区	伊沢地区	林地区	合計
阿波高校	4	0	3	7	5	5	2	1	1	2	3	33
阿波西高校	4	1	0	2	0	5	1	2	6	5	8	34
川島高校	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	4
つるぎ高校	1	0	0	1	0	2	0	0	1	1	2	8
吉野川高校	3	2	9	6	0	1	0	0	0	0	1	22
脇町高校	0	0	0	0	1	6	5	1	5	5	6	29
総計	12	3	13	17	6	19	8	4	13	14	21	130

〔自宅～指定間連絡交通を希望する高校・居住地区〕

	一条地区	柿原地区	御所地区	土成地区	八幡地区	市場地区	久勝地区	伊沢地区	林地区	合計
阿波高校	0	1	1	1	2	1	1	0	1	8
阿波西高校	0	2	1	0	0	1	0	0	3	7
川島高校	0	1	0	0	0	1	1	0	1	4
つるぎ高校	0	0	0	1	0	1	0	2	2	6
吉野川高校	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
脇町高校	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3
総計	1	4	3	2	2	6	2	2	8	30

図 3-67 将来、阿波市で運行してほしい交通手段

(11) 希望する交通手段が阿波市で運行された場合の利用意向

- 将来、阿波市で運行してほしい交通手段別の利用意向は、最も多かった「路線バス」に着目すると、「利用したい」と「ときどき利用したい」を合わせて市合計で約5割となっている。
- 高齢者で希望が多かった「自宅～指定場所間連絡交通」は、「利用したい」と「ときどき利用したい」を合わせると、市場町、吉野町で「路線バス」よりも多くなっている。

(路線バスを運行した場合の利用意向)



(各モードを運行した場合の利用意向)

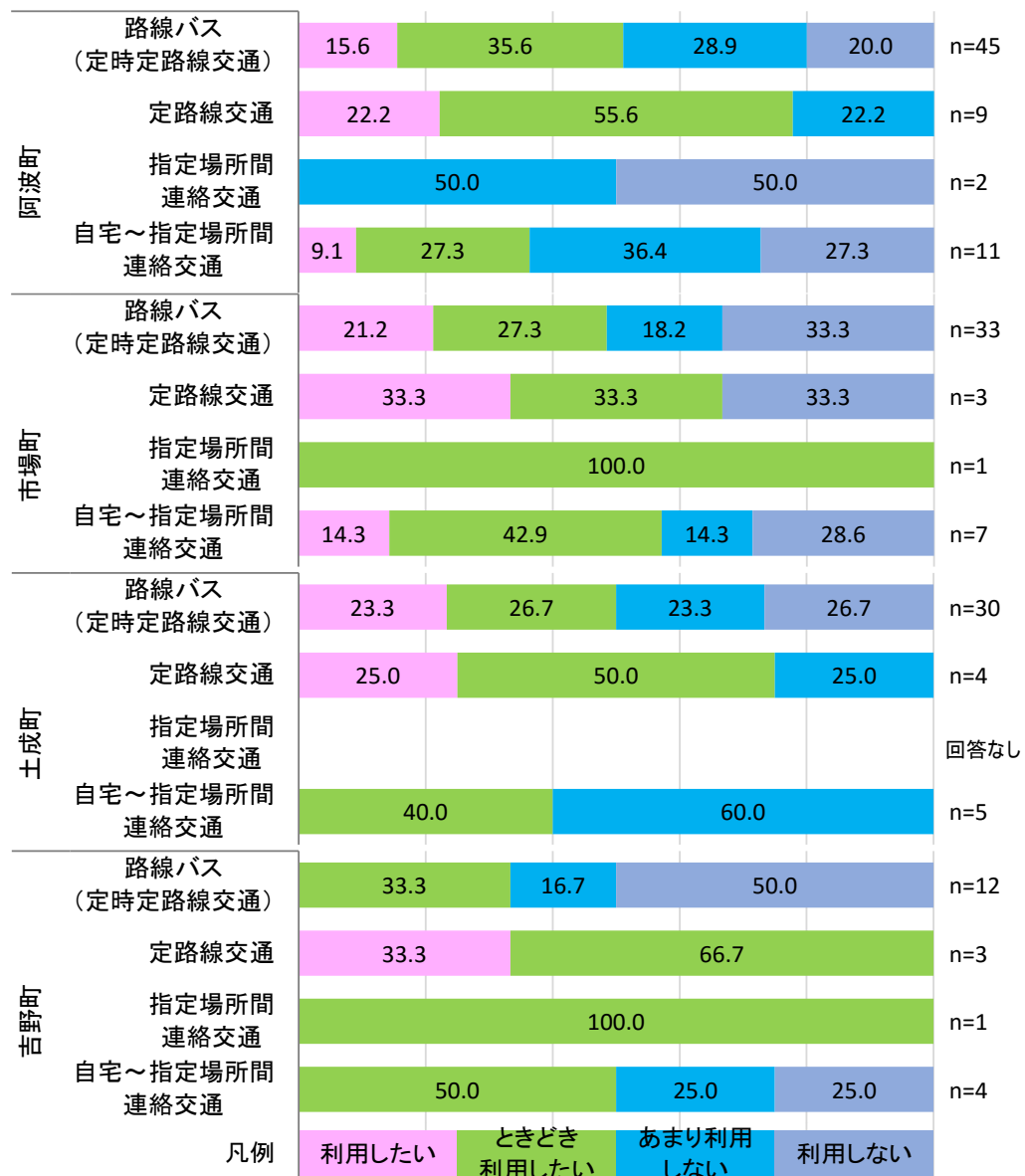


図 3-68 希望する交通手段別が阿波市で運行された場合の利用意向

(12) 高校生アンケート調査からみた課題の整理

高校生アンケート調査の結果より、以下のことがわかった

〔アンケートからわかったこと①〕

- ・ 高校生の通学手段は自転車約 6 割と最も多く、次いで家族の送迎が多くなっている。また、鉄道利用の乗り換え手段でも同様の傾向となっている。(p3-42)
- ・ 雨や雪の日の登下校時に交通手段を変更する人は半数弱となっており、その大半が「家族の送迎等」となっている。下校時には阿波高校の市外通学者やつるぎ高校でバスの利用がある。(p3-43)
- ・ 路線バスを利用しない理由は「徒歩、自転車で通学できる」が約 6 割と最も多く、次いで「近くにバス停が無い」が約 4 割、「運行本数が少なくて不便」が約 3 割となっている。(p3-44)
- ・ 「利用しない理由」がひとつでも改善された場合の路線バス利用意向は、市合計では「利用する」と「利用するかもしれない」を合わせて半数弱となっている。(p3-45)
- ・ 利用するために改善してほしい内容は「近くにバス停が無い」が 4 割弱と最も多くなっている。(p3-45)
- ・ 将来、阿波市で運行して欲しい交通手段は、阿波高校、阿波西高校、吉野川高校、脇町高校で約 69～88%が「路線バス」となっており、川島高校、つるぎ高校は「路線バス」が多いものの、「自宅～指定間連絡交通」が他高校よりも多くなっている。(p3-46)
- ・ 「路線バス」を運行した場合、「利用したい」と「ときどき利用したい」を合わせて約 5 割となっている。高齢者で希望が多かった「自宅～指定場所間連絡交通」は、「利用したい」と「ときどき利用したい」を合わせると、市場町、吉野町で「路線バス」よりも多くなっている。(p3-47)

将来、阿波市で運行して欲しい交通手段は「路線バス」が多く、駅やバス停へのアクセス等の移動ニーズに対応する交通手段が必要。

3.5 計画策定のために行った調査結果のまとめ

計画策定のために実施したアンケート調査より、以下のことが考えられる。

① 日常的な移動について

日常的な移動について、自動車で移動できる場合は「自由に使える交通手段」が概ね満たされているが、運転免許証を持たない10代や75歳以上の人は「自由に使える交通手段がない」人が多くなっている。（p3-3）

希望どおりの外出が出来ない人は全体の約1割存在しており、その理由は10代、65歳以上で「移動手段が無い」、特に75歳以上では「体力的につらい」が多く、体力面で移動の負荷が大きくなっていると考えられる。（p3-6）

市民の移動は、自町内での移動が最も多く、市内での移動は約6割となっているが、市外の商業施設や医療機関への日常的な移動需要もみられる。市民がよく利用する主要な医療機関や商業施設は鳴門池田線沿いに点在しており、現在は路線バスでのアクセスが困難となっているため、バス路線拡充の運行希望も鳴門池田線沿いが多くなっている。（p3-7、3-8、3-9、3-15）

高齢者の運転免許証の返納について、80歳以上で返納が多くなっており、80歳未満では少数に留まっている。返納についての意思是、「いつ頃返納するかわからない」「返納する気はない」が9割を超えているものの、将来運転ができなくなった際の移動手段には不安を抱える人が存在している。（p3-16、3-26）

高校生の通学手段は自転車約6割と最も多く、次いで家族の送迎が多くなっている。雨や雪の日の登下校時に交通手段を変更する人は半数弱となっており、少数のバス利用があるが、その大半が「家族の送迎等」となっている。（p3-42、3-43）

② 路線バスの利用状況

路線バスは認知度は全体の約6割あるが、利用率は全体の5%と低迷している。路線バスを利用しない理由としては、「目的地まで直接行けるバスがないから」「バス停・駅まで遠いから」「運行本数が少ないから」「自動車・バイク（原付）・自転車を使うより時間がかかるから」が上位となっており、利用したいところにバス路線やバス停が無い状況となっている（少ないバス路線数、少ないバス停数）。これらの利用しない理由が1つ改善された場合の利用意向は、「利用しない」の割合が最も多くなっている。（p3-10、3-11、3-13、3-25、3-26、3-34、3-35、3-44、3-45）

③ 公共交通空白地域への対応

公共交通空白地域については「対策をしてほしい」「検討をしてほしい」が多くなっており、今後の路線バスは置換（バスに代わるより効果的な公共交通手段の設置を検討すべきである。）が全体の約4割、拡充と維持がそれぞれの約2割となっている。（p3-12、3-14）

④ 阿波市で運行して欲しい公共交通手段と今後の公共交通

阿波市で運行して欲しい公共交通手段は高齢者と路線バス沿線住民については、「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」への希望が多く、次いで「路線バス」となっている。「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」を導入した場合の利用意向は、「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせると約3～5割となっている。（p3-27、p3-35、3-36）

高校生の運行して欲しい公共交通手段は「路線バス」が多くなっており、次いで「予約型・自宅～指定場所連絡交通」となっている。路線バスの利用意向は「利用したい」「ときどき利用したい」を合わせると約3～5割となっている。高齢者で希望が多かった「自宅～指定場所間連絡交通」は、「利用したい」と「ときどき利用したい」を合わせると、市場町、吉

野町で「路線バス」よりも多くなっている。(p3-46、3-47)

今後の公共交通について、「市民誰もが気軽に利用できるよう、市内全体に公共交通を運行すべき」との意見が最も多くなっている。(p3-29、3-38)

⑤ 公共交通の継続に向けて

公共交通の継続には「地域住民が支えていく意識を育てる」、次いで「地域住民が積極的に利用」となっており、地域住民への働きかけや取り組みが重要と考えられている。(p3-16)

以上より、阿波市における公共交通について、以下の課題があると考えられる。

◆運転免許非保持者や高齢者、公共交通空白地域居住者等が移動できる公共交通が必要

運転免許証の非保持者、自由に使える交通手段がない10代と65歳以上の人や、現在は公共交通空白地域で利用できる公共交通が無い人をはじめ、市民誰もが自動車に依存せずに移動できる公共交通が必要と考えられる。特に75歳以上の方は体力的に移動の負担が大きいことを考慮する必要があると考えられる。

◆移動ニーズに対応する交通手段および公共交通の認知度向上が必要

路線バスの認知度は約6割に留まっており、市民によく利用されている施設へのアクセスが困難で利用率は低い状況にある。

路線バスを利用しない理由は、利用したいところにバス路線やバス停が無い(少ないバス路線数、バス停数)となっているが、1つ改善した場合でも「利用する」の割合は少ないことから、市民の移動ニーズに対応する交通手段、運転免許証の返納を促進する交通手段が必要と考えられる。

◆新たな交通手段の導入を含めた市の公共交通網の検討が必要

市全域で、市民誰もが気軽に利用できる公共交通として、特に高齢者の移動手段の確保の観点より、導入の希望が多い「予約型・自宅～指定場所間連絡交通」の運行に向けた検討が必要と考えられる。また、財政的制約や効率的かつ持続的な公共交通の観点から、利用状況と移動ニーズに対応した路線バスの見直しが必要と考えられ、新たな交通手段を含めた市の公共交通網の検討が必要と考えられる。

◆公共交通の継続に向けた地域住民との協働が必要

公共交通の継続に向けて、市民意向として「地域住民が支えていく意識を育てる」、次いで「地域住民が積極的に利用」が多くなっており、行政や交通事業者だけでなく、地域住民との協働が必要と考えられる。